鎌倉市教育委員会　令和２年８月臨時会会議録

〇日時　　令和２年（2020 年）８月５日（水）
　　９時 30 分開会　15 時 56 分閉会

〇場所　　鎌倉市立御成小学校　ランチルーム

〇出席委員　　岩岡教育長、齋藤委員、山田委員、下平委員、朝比奈委員

〇傍聴者　　90人

〇本日審議を行った案件
日程１　協議事項
　令和３年度（2021 年度）使用中学校教科用図書の選定について

日程２　議案第 15 号
　令和３年度（2021 年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について

日程３　議案第 16 号
　鎌倉市教育委員会職員の人事について

岩岡教育長

始める前に傍聴の方に注意点とご案内を申し上げる。本日は暑い中お越し下さり感謝する。快適に傍聴していただけるよう事務局職員一同、コロナウイルス感染症対策に最善を尽くしているが、暑い中なので途中で体調が悪い方は手を挙げていただければ退出できるように対応するので、早めにお知らせいただきたい。休憩時間以外に入退出をされる方は協議の進行の妨げにならないよう種目と種目の間にお願いしたいと思う。会議の途中で概ね４種目ごとに休憩を予定しており、休憩以外での入退出はご遠慮願いたいと思う。傍聴の方は手を挙げての発言はできないので、手を挙げる方はあくまでも体調を崩された方への対応ということでご理解いただければと思う。

それでは、定足数に達したので本委員会は成立した。これより８月教育委員会臨時会を始めたいと思う。本日の会議録署名委員を山田委員にお願いする。

私が就任して初めての教育委員会であるので、簡潔に皆さまにご挨拶をしたいと思う。今後、様々な鎌倉の教育課題に取り組んで行くこととなるが、教育委員の皆さまとの充実した合議の上、これまでの行政経験を生かして鎌倉市の教育振興に全力を尽くしてまいりたいので、委員の皆さまにおかれてはよろしくお願いしたいと思う。

それでは本日の議事日程は、お手元に配付したとおりである。日程の３議案第 16 号「鎌倉市教育委員会人事について」については人事案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第７項の規定により非公開にしたいと思うが、ご異議ないか。

（異議なし）

岩岡教育長

異議なしと認め、議案第 16 号については非公開とする。なお議案第 16 号の議案集については臨時会議終了後に事務局が回収させていただく。では日程に従い議事を進める。

本日は、令和３年度（2021 年度）使用教科書の採択についてご審議をお願いする。なお、中学校使用教科用図書については文部科学省通知「令和３年度(2021 年度）使用教科書の採択事務処理について」の通知により全ての教科書について新たに採択を行うこととされていることから、これまでと同様に始めに協議事項として種目ごとに選定についてのご協議をお願いする。その結果を踏まえ議案第 15 号において採択についての審議をお願いしたいと思う。では日程に従い議事を進めさせていただく。

１　協議事項　令和３年度（2021 年度）使用中学校教科用図書の選定について

岩岡教育長

日程の１協議事項「令和３年度（2021 年度）使用中学校教科用図書の選定について」を議題とする。事務局からの説明をお願いする。

教育指導課長

協議事項「令和３年度(2021 年度)使用中学校教科用図書の選定について」、説明する。議案集は１ページを参照いただきたい。

令和３年度（2021 年度）使用中学校教科用図書の採択にあたり、検討委員会より報告のあった「令和３年度（2021 年度）使用教科用図書調査研究報告書（中学校)」を基に、教科用図書の選定についてご協議をしていただくこととなる。それに先立ち、この報告書作成までの経過について説明する。本年４月の教育委員会で「令和３年度（2021 年度）使用教科用図書の採択方針を議決していただいた。その採択方針に基づき、鎌倉市教科用図書採択検討委員会を５月に設置した。第１回検討委員会を５月 12 日に開催し、教育委員会が採択をするにあたって参考となる資料を作成することを教育長から検討委員会に依頼した。検討委員会では報告書を作成するにあたり、種目ごとに調査員を置き、依頼内容に基づき調査員に教科用図書見本本の調査研究を指示した。調査委員会は第１回を５月 20 日に開催し、調査活動に入った。さらに６月 10 日と 30 日の計３回開催し、調査資料を作成した。この調査資料を基に、検討委員会を７月８日と 21 日に開催し、内容の検討に入ると共に総合評価について協議し、検討結果として報告書をまとめていただいた。そして７月 29 日に鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から報告を受け、教育委員の皆さまへお届けした。以上が経過である。

続いて報告書の説明をする。お手元の「令和３年（2021 年度）使用教科用図書調査研究報告書（中学校)」の１ページを参照いただきたい。左上に種目が示されている。また表については左の項目から「発行者番号」「発行者略称」「書名」「検討結果」「総合評価」となっており、「発行者番号」「発行者略称」「書名」は文部科学省から送付された中学校用教科書目録に示されたものになる。検討委員会で協議した内容を発行者ごとにその特徴を総合評

価に記述し、検討結果に、鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会が判断した教科書を○（一重丸）、鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断したものを◎（二重丸）としている。この形式で 16 種目の教科書について報告がされている。以上で報告書の作成経過と報告書についての説明を終わる。

本日は、小学校用及び中学校用の教科用図書の採択を行うが、この後、中学校用教科用図書について、１種目ずつご協議をいただき、鎌倉の生徒にとって最もふさわしいものを選定いただくようお願いする。なお、種目ごとの担当指導主事より協議の冒頭に報告書の説明をさせていただく。また協議における詳細内容の質疑等についても発言をさせていただくことをご了承いただきたい。

岩岡教育長

ただいま事務局から教科用図書採択検討委員会からの調査研究報告書について説明があったが、各種目に関する説明は担当指導主事が説明するということであるが、何か質問などあるか。

（質問・意見なし）

岩岡教育長

質問がないようなので、各種目に関する説明は担当指導主事が行うことにしたいと思う。それでは協議に入る。協議に先立ち、協議の進め方についてお諮りする。進め方としては検討委員会から報告された「令和３年度（2021 年度）使用教科用図書調査研究報告書（中学校）」に記載されている 16 種目について、まず種目ごとに担当指導主事より研究報告書の説明を受け、次に報告書にある検討結果や総合評価を踏まえつつ、各教育委員の皆さま、教科書をしっかり読み込んでいただいており、そうしたことを踏まえて、どの教科用図書が鎌倉の子どもたちにふさわしいか、というご意見をいただき、種目ごとに協議を進め、最終的には全員一致の意見で採択を絞っていくと、ということにしたいと思う。また種目の協議順であるが、２年前に採択をし、今回初めての選択替えとなる、「特別の教科道徳」については、先に協議を行い、以降は報告書に記載の順で進めていきたいというふうに思う。協議の進め方、順番について、何か質問などあるか。

（質問・意見なし）

岩岡教育長

それではまず道徳、次に国語、以降は報告書に記載の順番で、協議を進めていくことにしする。では道徳について、担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育センター指導主事

それでは道徳について説明をする。検討委員会では７者の教科書を検討した結果、東京書籍、光村図書、学研の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中で

も特に東京書籍へのご意見が多く、検討委員会として１番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。教材に現代的なものや生徒が実感を持ちやすい読みものが豊富に扱われているとともに、鎌倉にゆかりのある杉原千畝など、神奈川県の資料も掲載されている。また主となる教材の数が年間授業日数に比べ、余裕のある数となっており、学習の内容を膨らませて指導したり、ひとつの単元を複数時間で学習したりすることも可能になっている。付録として用意されている心情例は、生徒の心の変化を可視化することができ、ホワイトボードとともに考え、議論をする道徳の実践に有効である。

続いて、光村図書について説明する。全体的に前向きで明るい内容が多く、いじめ等の内容も漫画を利用するなど、多様な形で教材が提示されているとともに、学習する内容を生徒に押し付けないようになっている。

最後に、学研について説明する。他教科や部活動に関連する教材が用意されており、生徒が得意な分野を生かしながら、内容項目について学ぶことができるなど、生徒が自分ごととして学習することができるようになっている。

岩岡教育長

特に道徳に関しては、採択後２年間ということになるので、現場の皆さんの使用状況であるとか、使用にあたって、どのような課題が生じているのか生じていないのかと、そういったことが協議にあたって、判断のひとつの大きな柱になると思うので、併せて現場での使用状況などについてのご報告をいただければと思う。

教育センター指導主事

使用に関して、使いにくいとかそのような声は上がっていなかった。読み物教材やその他の教材の内容、また数のバランス、写真や挿絵などのバランスがよいという声が聞かれた。また付録ではあるが、巻末の心情例、こちらは授業中になかなか自分の立場を表すことができない生徒も、簡単に立場を表すことができるとともに、授業者にとっても生徒をみることができるという点で、考え、議論する道徳を実践する上で、有効なツールである。そのような意見があった。

岩岡教育長

それでは協議に入りたいと思う。１種目であるので、私の意見を述べさせていただきたいと思う。道徳は７者から選ぶということである。先程からの調査員の報告にあったが、私は東京書籍を推したいと思っている。道徳に関しては、単に道徳的な諸価値を一方的に理解させるにとどまらず、自己を見つめ物事を多面的に考えていくと、内省的な活動がしっかりと道徳教育の中にあるのだろうかというところが非常に重要な項目と考えた。その為には、例えば分量が多すぎないとか、教材が簡潔であるとか、そういったことも重要な視点となるし、また道徳の教科化のきっかけとなった、いじめを防ぐということについても、これは丁寧に扱われているかという視点で拝見させていただいた。東京書籍に関しては、いじめについては、いじめにあたるのはなんなのだろうかというところを、初心から考えていくというところから始まるのと、非常によい内容が盛り込まれているので、読み物の分量や数も余裕があ

り、ひとつの単元に複数時間をかけるなど、考える為の学習活動となっていると思った。また杉原千畝の、命のリレーの教材も、他の道徳の教科書にも取り上げられてはいるのだが、鎌倉の出身で、鎌倉の方で、日本において滞在期間を伸ばすということに尽力した、小辻節三さんの話があるのが、東京書籍だということ。また付録の心情円を使いながら主体的、対話的な授業展開が可能であるということで、東京書籍を推したいと思う。また例えば、光村図書に関しては非常にダイバーシティな、多様な内容が盛り込まれているとか、学研はブラックジャックや SNS などの馴染みやすい内容が取り上げられていて、文字数も少なく読みやすい内容が揃えられていたり、あかつきについては、生徒の心を動かす質の高い読み物が多い等、それぞれ利点はあるのだが、少し教材の内容が多すぎたりすることもある。また、先程申し上げたような東京書籍の長所ということを考えると東京書籍を推したいと思う

下平委員

今お話があったように、やはり道徳の教科というのは自分自身、それから他人、社会、世界との関わりをより多方面から見つめ直せるような、そして考えることができるような教材がたくさん含まれているものが望ましいと感じている。その点で読んでいくと、各社とも素晴らしい、多方面から見つめ直せる題材が含まれていて、どの教科書も甲乙つけがたい、素晴らしい特徴があると感じた。私は学研が取り上げていた、アンネフランクの言葉で始まるのだが、中には全盲の中学校の先生の話や、それから、血の通った義足を作りたいという制作者の話、臓器提供に関しては子どもたちも分かりやすいように漫画で表記されているなど、色々な思いを引き出せるような、内容が非常に多かったと思う。そして、日本文教出版も、残念ながら中学で亡くなってしまった中学生の方の作文を取り上げられていて、命について考えられる貴重な題材だと思う。それから、エピカという有名な作品だが、ユダヤ人が収容所に送られていく電車の中から、とにかく命だけは助かってほしいと両親が窓から投げ入れていく、その赤ちゃんを受け止めて育ててくださった方がいて、というような話があるのだが、本当に中学生に読んでほしい内容となっていると感じながら読ませていただいた。日本の教科書も、LGBT のことが大変わかりやすく取り上げられており、各社とも非常に工夫があるよい題材がたくさんあると思った。ただ東京書籍に関しては、私どもは２年前に十分、道徳だけに絞って選んだ。少しうかがったところでは、題材は多少変わったが、全体的な作りというのは変わっていなくて、先生が自ら考えられる教材、バラエティに富んだ豊かな教材が使われている。学校訪問に行った時に、実際に先生が心情例を使っていらっしゃる状況を拝見したのだが、ちょっと照れもある中学生に対して、心情例を上手く使ってらっしゃるという姿を見る事もできたので、最終的には東京書籍を選びたいと感じた。以上である。

齋藤委員

道徳の教科書と考えた時に、子どもたちがどんな形で、どんな思いで成長していければよいのか、ということが私の考えるところである。それで色々な考えがある中で、子どもたちがお互いに話し合ったり、自分を見つめたりすることができるものが一番よいと考える。そんな思いで選んだ。その時に、やはり道徳なので、多くのテーマを持たせて、生命の尊さや

いじめ、それからキャリア教育、社会参画、生きていく上での、大変なことを教わっていかなくてはいけない。たくさんのことが教科書に載っていて、読んでいけばいくほど、ここがよい、ここもよい、という思いを持った。大きなテーマはやはり、身近にとらえ、そして生命の尊さやいじめ、安全防災、自然環境等々考えるなかで、大事な心を持つことが目的となっていると感じた。それぞれの思いを感じながら学習していくものになっているということを感じた。いじめに関しても複数のテーマが入っており、テーマがはっきりしているということで、そうした中で１年２年３年と段階を追いながら、考えさせることができる、学ばせて行ける、成長させていけるものとなっているのが教育出版である。

それから東京書籍については、考えながらやってみよう、というのがあり、考え方をまとめて記入するページがあり、その時々の気持ちを記入することができる。子どもたちが友だちと自分の気持ちを思うようになり、また自分の生き方、考え方を認めていくということができるようになるのがよいと感じた。自分なりに社会を思う、周りを思う子に育ってくれるのではと思い、東京書籍を推したいと思う。

朝比奈委員

一教科に７者となかなか選択肢も多くて迷うところではあるのだが、検討委員会の評価にもあったように、私が個人的に悩むところはこの東京書籍と、光村図書も私のイメージでは光村図書は国語の教科書というイメージがあるので、フォントであるとかも含めて非常に読みやすいものではあるのだが、また学研が教科書のみならずメディア的にも工夫されていて、コミックであるブラックジャックなども取り上げられていて、私の世代にぴったりの教材なのだが、これが今の中学生にどこまで響くものなのかとは感じた。鎌倉市の子どもたちにということを考えると、鎌倉市にゆかりの深い方をお取り上げいただいている点において、どれから選ぶかと言うと、東京書籍を推したいと思う。他の出版社も劣るものではないのだが、この中からであると東京書籍を推したいと思う。

山田委員

改めてもう一度、全部の出版社の教科書を見させていただいた。手に取る度にそれぞれのよいところが見つかって、こっちの方がよいかもとか、これもよいという感じで、なかなか絞り込むというのが難しかったのだが、細かいところは皆様がおっしゃったとおりで、私も東京書籍はよろしいのではないかと思う。

岩岡教育長

ただいまの各委員のご意見をまとめていくと、道徳については一致していて、東京書籍になるかと思うが、よろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

では道徳については東京書籍を選定することとする。次に国語について担当の指導主事

より報告書の説明をお願いする。

教育センター指導主事

国語について説明する。検討委員会で４者の教科書見本を検討した結果、三省堂、教育出版、光村図書の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中でも、特に三省堂のご意見が多く、検討委員会として１番の推薦となった。まず三省堂について説明する。「領域別一覧」において、新学習指導要領に求められているつけたい力を具体的に表記することで、どんな力をつけるために学んでいるのかが視覚的に分かりやすく、生徒が学習の見通しと振り返りをする時に役立つようになっている。資料編の「社会生活に生かす」では、主体的・対話的な学習に生かすことができる効果的な話し合いの仕方が載せられ、「情報を活用する」では、情報の収集の仕方等、思考力・判断力の育成に繋がる学習や日常に活用できる例が多く掲載されている。続いて教育出版について説明する。SDGs をテーマにした単元と、社会が直面している課題に対する幅広い分野の教材が取り上げられ、多角的な視点で学ぶことができるようになっている。また、由比ガ浜に打ち上げられたクジラについても載せられていて、身近な出来事から学習することもできる。最後に光村図書について説明する。実生活に則したメディアリテラシーの力がつくように、情報の性質や捉え方、活用の仕方や情報社会の課題を各学年で取り上げている。また、QR コードから話し合いの活動やスピーチのモデルとなる様子を動画ですぐ確認することができるようになっている。

岩岡教育長

それでは国語は４者から選ぶということになるが、委員の皆さま、ご意見よろしいか。

齋藤委員

まず東京書籍についてであるが、「学びのとびら」というのがあり、単元ごとについているのだが、学びを深められるようになっている。それから本編・基礎編・資料編で構成されていて、その時々に合わせた形で学びが深まっていくという、活用の仕方がある。それから古典作品の資料が数多く掲載されているという部分で、伝統文化において興味を持つ工夫がされている。国語の力を養っていくという点で非常によいと思う。

三省堂は、課題作文、説得力のある文章を書くといったことが巧みに取り上げられている。それから、古典芸能に親しみを持つところなどは、親しみのある落語や歌舞伎などを取り上げて、発展的な学習へと繋げる工夫がされている。

教育出版は、「みちしるべ」や、「学びナビ」等がある。何を学ぶかがはっきり考える手立てが取られている。そして、学び方を学び、議題を追及する方法として、やはり学習を追及していきながら学習を深めていくことができると感じる。それから三つの問い、はじめの問い、そして次の問いという形になっている。自然な流れの中で深い学びができるようになっている。

光村図書においては、子どもたちが親しみやすい文章がたくさん載っているが、読み進めて行くのが困難な時に、自分自身で努力をしていけるように、下に進捗管理が書いて、簡単な設問があり、そうすると自分でここが分からなかったのだというような自分の学びにな

るということを感じた。それから、「いにしえの心にふれる」というのがあって、古文のところであるが、色々な自分たちの慣れていない古典の世界、それから竹取物語等の難しい話を調べることができる。「こんなに面白いのだ」という興味を持つことができる。そういった入り方ができるようになっている。もう１点、作品や教材をしっかり読んでいき、自分の考えを持って、自分の考えを自分の言葉で相手に伝えることができることを目指すという点、他者との意見交換、交流をすることによって言語を使うことの育成につながる。

それからもう１点、「少年の日の思い出」というものが各社で取り扱われており、読み比べをしてみたところ、光村図書の効果的な方法、正しい形で読んでいけるつくりだけでなく、文章の読みやすさを感じた。活字や行間の問題も含めてとてもよくできており、これであれば抵抗なく色々な教材、題材を読みすすめていき、国語の力を伸ばしていくことにつながるだろうと感じたので、私は光村図書を推したいと思っている。

岩岡教育長

国語に関しては先日、OECD の基礎テストで情報活用能力が必ずしも延びてないという指摘もあったが、単なる心情読解に留まらず、合理的、論理的に考えていく、読む、書く、話す、聞くといった四つの部門についても様々なスキルを多面的に身につけることができるような内容になっているかどうかというところを重点的に見させていただいた。また１年生から３年生までそれがきちんと無理なくスパイラルで発展していっているかどうかというのが重要と思い、そうした発展性のところについても見させていただいた。また今後いまの子どもたちが社会で出ていった時に必要となるのはマルチなコミュニケーション能力だと思っている。色々な組織において複数人でディスカッションしながら話をしていき、アイデアを出していくことが非常に密接に行われるようになるということで、そうしたものが序々にステップアップできる構成になっているかというところを見させていただいたところなのだが、結論から申し上げると私は光村図書を推したいと思っている。全体的にバランスがよく、光村図書の特徴なのが何かしら主体的、対話的な学びの中で国語をアウトプットするといったときには「発信する」、元々の自分の考えをきちっとまとめるためのスキルや工夫というのが必要になってくる。やはり具体的に根拠を立てて説明しようという時にどのように根拠を作っていけばよいのかといったところから丁寧に教えられる内容となっている。思考のレッスン、情報整理のレッスンという形で本文の間にそうした思考をまとめるためのツールが丁寧に編み込まれ、重層的に取り上げられているというところが非常に適切であると思った。例えば根拠を挙げて説明しようといった項目の取り上げ方でも、根拠の取り上げ方は最初と最後の結論、根拠、理由という総括型と言われるものとか、ずっと前置きがあって最後に根拠がある尾括型、色々な根拠の取り上げ方、構成の仕方というのが例えば３年生の時にはしっかりと発展した形で教えられるような形となっているということや、多人数での話し合いの方法も、三省堂でもこうした内容を取り上げているということであったが、ブレインストーミングとか、グループディスカッション、ワールドカフェ、パネルディスカッションと色々な方法がまとめられていて、非常によくできている。また実用的な文書を読もうというところで新聞やパンフレット、説明書など様々な形式での文書も取り上げられており、構成もとてもよいので光村図書を推したいと思っている。

その他、例えば三省堂についても複数人での話し合い方の参考資料が充実している。また情報収集の仕方や、その発言方法に関する資料も豊富に掲載されているということは大変評価をしたいと思うのだが、先程の発展性というところでは光村図書の方が頑張っているなと考えている。

また東京書籍などは、漫画が効果的に使われているなど、児童生徒が理解を深めるような工夫がしっかりとされているのだが、そうした言語のスキルに関連する資料というのが後ろにまとめられていて、必ずしも本編との関連をうまく繋げられるのか、そこは先生の話はあるのかもしれないのだが、普段の授業でどうやって上手に絡めていけばよいというところが、分かりにくいという面があり、総合して、光村図書を推したいと思う。

朝比奈委員

私は、いつも考えるのは、小学校６年間学んできた後で、中学校に上がって、まずどの出版が１番よいかと思った時に、１年生を注目して見ることが多い。この度、コロナウイルスのことがあって、この後、中学に上がる時に、どれほど子どもたちが準備万端に中学校に進学できるかというところも、ポイントなのかと思う。

結論から先に申し上げると、やはりこの光村図書が特に、僕のこだわりでもあるのだが、本当に見やすい字なのである。これは大事な工夫ではあろうかと思う。それから、中の構成を拝見して、もちろん他社が劣る訳ではなくて、光村図書だけが抜きん出て何かが勝っている訳でもないのだが、大人が教え込むというのではなくて、自分で考えて行動するようなことを促す、この教科書を見ていけばちゃんとこれだけはできるというような、工夫が特に光村図書にあると考える。バランスというのが大事なのだと思うのだが、もちろん三省堂もよいと思うところもたくさんあるのだが、私は光村図書を推したいと思う。

下平委員

私も、限られている時間の中で、付録まで含めると、150 冊以上の教科書を短期間で読まなくてはいけなくて、ポイントを押さえて速読していくのが求められるのだが、道徳とか国語は、作品に入り込んでしまって、心が揺り動かされることがたくさんあった。今回の国語で印象に残ったのは、東京書籍が広島の第二中学校の先生、生徒、221 人が原子爆弾でどのような状況に陥って、どのように一人ひとりが亡くなっていってしまったかということを、広島テレビ放送の作品で取り上げられていて、中学校の生徒たちが作品に触れて、命とか、そして大事に生きるということを考えてくれたら嬉しいと思う。東京書籍は、「学びを支える言葉の力」という項目が、非常に資料として整理されていて有効だと感じている。

それから教育出版は、SDGs に基づいた言葉の地図というのが、単項ごとに、毎学年で取り上げてある。鎌倉市は未来計画審議会の中でも、2030 年までに SDGs、これを大切にしていこうということで、教育にも取り入れようと動いているところでもあるし、そういう意味では SDGs の考え方をしっかりと根付かせるために非常に有効だと感じた。ただ毎年、鎌倉市では、何と言っても、「話す・聞く・読む・書く」のバランスという意味では、バラエティ豊かな色々な視点から言葉というものを考えることができるようにされていると思った。特に３年のロジックスピーキングの論理的思考に基づいたスピーチ形成だとか、それが全

部できているし、それから、毎学年で、メディアリテラシーで、情報を集めてそれをいかに自分が活用してまとめていくかというようなことも上手く実施されていると感じた。それから２年生で、「いにしえの心を訪ねる」というところに、源氏と平家が大きく取り上げられており、６章全部を通じて源氏と平家の関係性、これを考えながら古典を学ぶ授業に含まれているところは、鎌倉の生徒には非常にインパクトがあるのではと感じた。それらの視点でどれも非常に素晴らしい教科書だと思うのだが、私は光村図書よいのではないかと感じている。

山田委員

それぞれ皆さまのおっしゃったものと賛同するのだが、一つ私はどの教科書にも取り上げていたヘルマンヘッセの「少年の日の思い出」という、この記述を見比べてみた。そうすると、エーミールの気持ちはどのようなものだったかというところをそれぞれの教科書の最後の考える、読み深めるというところで取り上げているのだが、２者はエーミールについてどう思うかをまとめるとか、どう考えていったのだろうかといった抽象的な問いであったのに対して、光村図書は母親の視点でどうであったろうというように、比較的具体的に子どもがどういうふうに考えたらよいかというところに問いかけている感じがして、より深い考え、ディスカッションに活用できるのではないかと思う。他の教科書にもそれぞれとてもよい点があるが、より深い考えで自分の論点を整理するという力を是非培ってほしいので、私も光村図書を推薦したいと思う。

岩岡教育長

教育委員の皆さまからのご意見が出そろい、鎌倉の子どもたちにとって、また今後の社会形成者である子どもたちが身に付けて欲しい能力という観点から、光村図書がよいというような声が多かったように思う。検討委員会の報告書では、三省堂が二重丸ということであるが、光村図書も鎌倉にとってふさわしい教科書だと、ご指摘をいただいているということも踏まえて、国語に関しては光村図書ということでよろしいか。それでは国語は光村図書を選定したいと思う。では次に書写について担当の指導主事より報告書の説明をお願いする。

学務課指導主事

書写について説明する。検討委員会で４者の教科書、見本本を検討した結果、東京書籍、教育出版、光村図書の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中でも特に光村図書へのご意見が多く、検討委員会として１番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。書写活用ブックは手紙、リーフレット、レポートのまとめ方や、メールの作成等、生活に役立つ資料が掲載されており、巻末にまとめられていることで、資料として扱いやすくなっている。

次に、教育出版について説明する。場面によって筆、ボールペン、鉛筆、万年筆等、適した筆記用具を示すアイコンが記載されており、表現の仕方によって、使用する筆記用具を選べるとともに、「書式の教室」では学校生活や実生活において、図書での学びを生かすことができるようになっている。

最後に光村図書について説明する。日常に役立つ書式として入学願書の書き方が詳しく記載されており、３年生は自分の願書を書くことで、きれいに文字を書くという目的に繋がることができるようになっている。また生徒の学びが広がるような資料として、筆と紙作り工程や筆使いの動画等、学習活動ごとにQRコードが示されているとともに、説明が丁寧で分かりやすく記載され、自主的に学習を進める事が出来、自宅学習に向いていると考えられている。

岩岡教育長

教育委員の中からご意見を頂戴したいと思う。

朝比奈委員

日常、私、筆をもって進める仕事が多いので、特に気になっているのだが、もちろん書写といっても、最初から最後まで、墨と筆だけが学校の勉強ではなくて、どの教科書も、最後の方に現代的な、様々な書き方が工夫されており、手に取った時に見栄えがよく、迷うところである。どの出版社であっても決して不足はないと考える。そういう中で選ばなくてはいけない、東京書籍は東京書籍のよさがあるし、教育出版はいかにも伝統的な表紙だと思うのだが、光村図書がやはりお手本の見やすさとか、小さいのだが、持って歩くことを考えれば、これくらいの大きさの方が持ち運びしやすくなろうかと思う。特にお手本が、綺麗で、よいのではないかと思う。

山田委員

文字の役割が多様化している今だと思う。色々な学習欄があるし、最近ではパソコンなどを使って、たくさんのフォントが一覧に一瞬にして出てくる、そのそれぞれの文字がどういう印象を与えてどういう表現ができるのかということを含めると、文字というのは字が持っている意味だけではなくて、デザインとかそういったことも含めて多様化していると感じている。そういう意味では先程、朝比奈委員がおっしゃっていた教育出版は、表紙が非常に丁寧であるし、日本の古典の鑑賞なども、伝統文化としての文字というところで、豊富に入っていて、こちらがよいとは思ってはいるのだが、現場の使いやすさだとか、大きさも考慮すると、光村図書がよいのかというあたりで、私は正直どちらもよいと思っている。

下平委員

朝比奈委員のように社会人になってから筆を使う仕事をするようになる人というのは、もしかすると限られているかもしれないということで、ただ筆を使うだけではなくて、色々な文字への興味関心、練習できるような教科書がよいかと思って、各社とも色々な工夫があるかと思う。教育出版の表紙が確かに素晴らしいのだが、東京書籍も和紙のちぎり絵の表紙になっていて、日本の伝統文化を上手く取り入れた表紙の工夫があると思ったし、本のトップを書こうという、そういう問いかけのシーンなども、非常に子どもには興味を持つのではないかと感じた。それから教育出版の表紙は、古今和歌集から持ってきていて、書道史にも残る様な素晴らしい書体だということで、非常にこれは印象的な表紙となっていると思っ

たし、やはり教育出版も写真が充実していて、生徒たちが楽しみながら文字に親しめる。それから本のトップなどに関しても工夫しながら取り組めるようにしていると思う。また光村図書は、私が素晴らしいと思ったのは、27 ページぐらいまで、ひたすら生徒がお手本を見ながら、しっかりといろんな文字を勉強できるように作ってあり、活用度が高いのではないかと思ったし、それからデザインとしての文字、日本の文字文化、ユニバーサルデザインについてとか、今の社会で非常に重要な文字についての付き合い方、考え方というのが豊富に学べるように上手くコンパクトにまとまって作られているなと感じた。光村図書は考えて上手く作られていると感じた。

齋藤委員

光村図書について、私もよいと思っている。日常に役立つ書式として、まとまった形で分かりやすく記載されているということである。そして先ほどもあったが、手紙の書き方、時候の挨拶、宛名の書き方、封筒の書き方など色々と掲載されている。そしてまとまっていて分かりやすい。ずっと使えるものだと思う。それから字形の異なった文字、形や中心、筆の順、組み立て方等を丁寧に説明する部分があり、やはりきれいに字を書くということも大事。後の学習とも繋げて、重なりを持たせて再度勉強できるような形がとられているというのがよいと感じた。それでやはり学びの場が多いということで、ステージも自分で考えて、ちゃんとできるようになると思う。

それから三省堂については、学習の流れがよくできている。自分の成長を感じられる部分や、やってみようなどの学習した内容を活用したりして、楽しみながら工夫しながら学んでいくということが見て取れる。

資料の充実について、日常生活に役立つ書式については、同じ様な形で書かれている。それは日頃の生活に生かし、豊かな生活を送れる学びの場としてやっていただけることに意義を感じた。どの会社も生徒の学び、また日常生活で大人として成長していくにあたっても、身に付けていかなくてはいけないものが身に付くという形になっていることを感じた。

最終的には色々なことを考えたけれども、楷書の書き方、行書の書き方など含めて考えていったとき、やはり光村図書が適していると思っている。

岩岡教育長

私の意見であるが、書写という種目については、字を美しく書くということにとどまらず、文字が近年果たしている役割の広がりを踏まえて、デザインとしての文字であるとか、あとは製品を作る上でのフォントの役割、フォントごとの受ける印象など、デジタルにおける文字、といった状況や、幅広く文字に慣れ親しむことができるものとなっているかどうかということが重要であるという視点で教科書を見させていただいた。この点、対照的で委員の皆さまも悩まれているのが光村図書と教育出版と思う。教育出版は書のデザインに、芸術としての書の美しさというところを非常に重要視していると感じた。事実、松尾芭蕉や新古今和歌集など、昔の書の達人が書いた書が載っていて、日本語の書体というのは美しいということがしっかりと感じ取れるような内容になっていると感じた。光村図書は、まさに現代的に文字をデザインとして捉えるデザインアートを取り上げるとか、フォントの種類による違

い、ユニバーサルデザイン書体など、現代社会への文字の広がりというのが丁寧に載せられている。文字やフォントを好きになる工夫がちりばめられていると思った。伝統と革新が同居しているこの鎌倉という地で、どちらの教科書がよいのかというのは各委員、非常に悩まれているかと思うが、私としては今の子どもたちが社会に出て行った時に、文字に対する関わりを身に付けてほしいといった時に、光村図書がよいと思っている。

全員の委員からご意見をいただいたので、まとめていきたいと思うが、よい教科書がある中で悩まれて、特に教育出版と光村図書の間では、各委員、どちらもよいのだけれどということではあったのだが、どちらかと言えば、最終的には光村図書が鎌倉の書写の教科書としてふさわしいというご意見があったと思うが、皆様、光村図書ということでよろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

では書写については光村図書を選定したいというふうに思う。次は社会に入る。次に社会(地理的分野)について、担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

社会(地理的分野)について説明する。検討委員会で４者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、教育出版、帝国書院の３者が、鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中でも特に、帝国書院へのご意見が多く、検討委員会として１番目の推薦となった。まず東京書籍について説明する。各編の導入として、グループで協力して活動を行う「みんなでチャレンジ」が設けられている。生徒が意見を出し合い、考えを発表しあうことで考えを深め、対話的な学びができるようになっている。

続いて教育出版について説明する。世界の地域構成では日本と世界の繋がりの導入に、生徒の身近なものであるタピオカを扱うなど、身近なものから日本と世界の繋がりを考えるきっかけとなる題材を取り上げる工夫がなされている。

最後に帝国書院について説明する。巻頭に SDGs、17 の目標が具体的な事例と写真で示されている。各節の振り返りでは、SDGs の視点で考える課題が設定されており、章の振り返りでも発展的な課題として持続可能な社会の実現について、考えさせる工夫がされている。教科書一冊を通して、SDGs を意識して学習することができる。また日本の地域的な特色では、ハザードマップの読み取り方で、鎌倉市のハザードマップが取り上げられ、鎌倉の中学生が自分の地域の防災について考えられる内容となっている。

岩岡教育長

報告感謝する。それでは社会（地理的分野）の４者から選ぶことになるが、教育委員の皆さまからご意見の伺いたいと思う。

山田委員

地理という教科は、生徒一人ひとりが地球上の構成員であることを認識して、世界に対し

て目を開いて、国内外にどんな課題があるのかということをよく知って、それに対する解決策を構想する力を養う、そういったことに非常に適した教科なのではと考えている。社会がグローバル化する中で、実際に行くことはできないのだが、旅するようにロマンを感じながら楽しく学んで、国際社会における自分自身の当事者意識を醸成していただくようなことが、この教科によって養われるとよいと願っている。

そういった視点で考えた時に、まず教育出版だが、冒頭、小学校で学んできたことと培った力の振り返りがあり、その上で中学校の地理というものは、どういう力を身に付けるものなのかというところが明記されていると思う。宇宙空間だとか、宇宙から捉えたドバイ、中央の見開きにもあったが、非常に大きな日本列島の図などがあり、非常に立体的で、私たち人間が地球の構成員であるのだということが実感しやすくなっている。また、地形、土地のサイズなのだが、オーストラリアと北海道とか、スイスと九州、バチカンとディズニーといったように、子どもたちがぱっと、これくらいの大きさなのかと実感できるような比較が分かりやすいのではないかと思った。中には国の成り立ちとか、カレーから見た食文化、オリンピックが開かれた都市はどこかというような感じで、これも生徒がわいわいと興味を持ってみんなで話しながら勉強できるのではないかと、全体的に中学生目線だと感じている。

東京書籍は、かけがえのない自然とか、持続可能な社会、そういった人類が共存していく方向を考えるための学習であることをしっかり謳っていると感じている。

帝国書院は、全編を通して SDGs の視点が展開されている。鎌倉市のハザードマップが掲載されており、生徒の防災意識を高めながら身近なマップを読み取る力がつけられるのも、鎌倉の子どもたちにとってよい機会なのではないかと考える。学習の振り返りが手厚くて、学んだ部分を振り返るだけではなく、地理的な見方、考え方について話し合いを通じて醸成する問いかけが豊富だったと思う。

やはり地図で実績のある出版社ということで、図がはっきり見やすくて、地図帳や資料集が別にあることを考えると、少々情報量が多すぎるかという気がしているのだけども、鎌倉市には適していると思っている。

このようなことから、私は地理については帝国書院がふさわしいのではないかと考えている。

朝比奈委員

地理について、まず結論から申し上げるとどれも非常に情報量が豊かで、見た目も分かりやすく、目に入ってきた時の情報もよく整理されている。ただ、先程、山田委員がおっしゃったように、地図で定評のある帝国書院が、多少抜きん出ているという気がしている。また中で取り上げている地方のところ、鎌倉市の子どもたちが楽しく学べる、意欲的に学べるという点では、やはり鎌倉市にゆかりの事柄が取り上げられている、あるいは関東地方、１番身近なところが取り上げられているというのは、どっちか悩んだりした時には、大事なところなのだろうと私は思っている。特に帝国書院が報告にもあるが、鎌倉市のハザードマップが取り上げられており、あるいは SDGs 視点というのはどこの出版社も一応、視点としてはあるのだろうと思うのだが、比較すると関東地方に対する取り上げが帝国書院が多いという気がしているので、そういう点からも鎌倉市の子どもたちが学ぶのによろしいのではな

いかと思う。

齋藤委員

私も同じく帝国書院がよいという考えを持っている。やはり学習課題をはっきりさせ学びの手掛かりとなる工夫が随所に見られるという点。それから先程から話のある、SDGs の視点で目標が具体的に示されている。そして各節の振り返りでより深く考える課題が設定されている。一度学んだらそれで終わりではなくて、色々なところで学んでいく。それから日本の地域的特色ということで、グラフの読み取り方、それから自分が住んでいるこの鎌倉の中で、防災意識をどんどん高めていく。先日、テレビでもやっていたのだが、中学生が地域に入っていって高齢者も含めて安全性を高めていく。防災意識を高めていくというような、より覚悟していくという場面があった。そういうことも含めて防災について意識を高め、そして考えよう、しっかりと考えて、鎌倉に住む一人としてしっかり生きていく形を取れたらよいということをとても強く感じた。その他たくさんあるが、学びやすいよう、的確な授業を提示されており、生徒が興味を持ちやすい。そして写真、事実等の説明があって、そういう説明等が的確で、生徒の学びをどんどん深めていくことができるという視点から、私も帝国書院を推したいと思っている。

下平委員

地理というのは、持続可能な社会に向けて、SDGs の世界の取組を、子どもたちにしっかりと自覚してほしいという視点で見たのだが、各社とも多少は触れられていた。東京書籍も巻頭のところに触れており、さらに課題を見つける SDGs の研究ということで、最後まとめに繋がっているし、教育出版も世界遺産と SDGs を繋げて、地理的なアプローチをとっていらしたし、帝国書院は皆さんもおっしゃってくださったように、本当に各節で SDGs の視点がしっかりと取り上げられていて、最後のまとめも SDGs でまとまっており、全体としてしっかりと取り入れられていただけていると思った。日本文教出版は最後の方に SDGs を取り上げていた。日本文教出版で私が印象に残ったのは、ハザードマップのところで、150 ページなのであるが、釜石の奇跡ということで、釜石の東中学校の生徒たちが日頃からハザードマップを作り、そして防災に対する意識を高めていたおかげで、自分たちの命はもちろんのこと、街の人たちを救ったという。日頃からの思い、備えが大事なのだ、ということをしっかりと感じさせてくれるページがとても印象的であった。ただ、帝国書院は 152 ページで鎌倉市のハザードマップを取り上げてくださっていて、これは一から作ろうと思うととても大変だと思うのだが、これがあることによって、鎌倉市の中学生たちに防災意識をしっかりと作ってもらえるのではと思った。そういう意味で SDGs を通して、うまく使っていただいていること、それからハザードマップの件などは、活用できるということで、帝国書院を推したいと思う。

岩岡教育長

地理に関しては今回学習指導要領の改訂というところで、やはり大きく目玉になったのは社会的気象等の意味や意義、特色、相互の関連を考察したり、課題を把握するというのは

これまでも入っていたことなのであるが、具体的に構想したりするといった活動をきちんとやっていきたいという願いが込められて、この教科書は作られているということだと感じている。この社会に見られる課題は何を解決に向けて、我々構想しているかというと、それはまさに具体的にSDGsという目標が掲げられているということであるから、まさに持続可能な発展に対して、その必要性を理解して、当事者として参画をし、解決策を構想するといったようなことが、地理という教科の中でどれだけできるかという視点を持って見た。結論から言えば帝国書院にしたいと思う訳だが、帝国書院は、SDGsを見開きが始まっている。他の教科書会社もSDGsについて触れてはいるのであるが、帝国書院はコラムをすべて持続可能な社会を作るためになる参考の取組という視点からまとめているということが、非常に本当にSDGsを本気で子どもたちの中に内面化していきたいという思いを強く感じた。またその教科書の作りとしても「写真で眺める〇〇地方」といった形で地域の全体図を掴んでから各論にいくという流れが素晴らしいと思うし、「議論を磨く」というコーナーが特徴的で、地理的な見方を使って、資料や地理の読み取り方を身につけるという丁寧なガイダンスが入っているというのが評価されると思った。やや分量が多いのだが、文量が多い、資料が多いというのは現場の先生によって技量が試されるということで、そこについて我々不安があったのだが、検討委員会でも評価をしているということは現場の先生方も使いやすいのではないのかという評価を頂いているのだと思うので、そこは信頼したいと思っている。

また、鎌倉の津波ハザードマップの読み方というのが題材として取り上げられている。単に鎌倉だけ取り上げられているということだけが教科書を選ぶ視点では当然ないと思うが、ここに関して言うと防災教育というのは各学校で一から積み上げていくというよりは教科用図書にしっかりと入っていて、先生も子どもたちに教えられるというのが非常に強みになるし、今後、関東地方での地震も予想される中、津波に対する防災というのがしっかりと教育活動に組み込めるという事は大きなポイントなのではないかと思った。東京書籍などは本文に探求的活動が練り込まれており、みんなでチャレンジというようなコーナーなどはとてもよいと思うし、そういった趣旨をしっかりと踏まえた教科書だとは思うが、先程申し上げた視点から私としては帝国書院がよいと思っている。

地理に関しては、皆さん意見は出揃ったという事だが、帝国書院に絞られたと考えているがその方向性でよろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

社会、地理的分野については帝国書院を選定したいと思う。４種目終わったのでここで一旦休憩としたいと思う。再開時間は 10 時 55 分頃に再開したいと思うのでよろしくお願いする。

（休　　憩）

岩岡教育長

それでは教育委員会８月臨時会を再開したいと思う。では次に社会、歴史的分野について担当指導主事より報告書のご説明をお願いする。

教育指導課指導主事

社会、歴史的分野について説明する。検討委員会で７者の教科書の検討をした結果、東京書籍、帝国書院、日本文教出版の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また、３者の中でも特に東京書籍へのご意見が多く、検討委員会として１番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。巻頭に環境・エネルギー・平和など持続可能な社会の実現のための内容が具体的に掲載されており、「歴史にアクセス」、「もっと歴史」のコラムなど全体を通して SDGs を意識した構成となっている。各章の導入では、資料から気づきを促し、対話的な活動が設定されており、また章のはじめに探求課題に迫るための手立てとして、段階を踏む学習方法の記載があることも特徴である。

続いて帝国書院について説明する。タイムトラベルでは、当時の人々の様子が詳しく描写され、他の時代と比較したり、前の時代の学習を振り返ったり、興味を持って学習に取り組むことができ、また「多面的多角的に考えてみよう」では、様々な立場から考えることで、主体的な活動ができるようになっている。

最後に、日本文教出版について説明する。古代から現代まで各時代の女性の姿を紹介するコラムが８テーマあり、男女平等の意義について考える力を養うことができる。またチャレンジ歴史のページでは複数の資料を活かして、テーマに応じた考えを導き出す力を身に付けられる。

岩岡教育長

それでは社会、歴史的分野７者から選ぶことになる。少し種目数が多いので時間がかかってしまうかもしれないが、教育委員の皆さま、ご意見お願いする。

朝比奈委員

歴史教科７者と多いところである。その中で、検討委員会でこれがよいのではないかというのがピックアップされている訳だが、歴史を学ぶというのはすごく大切なことで、言ってしまえばこの教科書だけで学び尽くせるものではない。ただ中学生になって、この歴史、いわゆる小学校とはまた違う踏み込んだところでの歴史を学ぶ、日本人としての歴史。世界の中での日本人としての認識を、この歴史を学ぶ中で培っていくものなのだろうと思う。色々な情報の表現、どこに注目したらよいかといった小さい小窓みたいなものがあったりする。そういう工夫を各社、大変工夫されている。キャラクターを使っているなど、各社とも遜色が無いかもしれない。そこで私がいつも歴史の教科書を選ぶ時に、どこに注目するかというと、鎌倉時代のところである。鎌倉時代というのは日本の歴史の中でちょっとした転換期と言える。色々な文化、禅宗等が入って来た。そういったところを鎌倉の子どもたち、生徒たちであるので、是非親しく感じていただきたい。そういうことをもしかしたらよその方から見ると、少し偏ってしまうやり方ではないかとおっしゃるかもしれない。ただ私は、そこは大事なところだと考えており、この鎌倉時代のところが丁寧に書かれているのが、東京書籍

なのである。鎌倉時代は一つの歴史を成している訳だから、もちろんどこの出版社も言及されているけれども、実は他の出版社も円覚寺舎利殿など私が関わっているお寺を取り上げていただいていて、ありがたいのだが、特に東京書籍がいわゆる公教育の中で宗教的な部分は、なかなか先生は話をしにくいと思うが、大陸からの文化が入って来て、武士階級においてどの仏教がどのように広がっていったかというところを上手に伝えてくれたら嬉しいと思う。それは後の我々日本人を形成する大事なことに繋がると信じているので、繰り返すが、その辺で東京書籍が１番丁寧に書かれていたということで推したいと思っている。余談だが、私がよく知っている若い和尚さんが写真に映っていて、とても嬉しいことだと思う。

齋藤委員

まず教育出版について伝えたいことがある。教育出版については単元ごとのタイトルがとてもインパクトがあり、副題なるものまで作られていて課題意識を持つ取り組みやすい構成になっている。それから説明等がよく、その上資料もはっきりとしていて、理解しやすいというよさが出ていると感じた。それから学習課題を捉え、その解決に向けて関連資料が的確に掲載されており、生徒の思考を深める手立てとなっている。そういったところで教育出版のよさを感じている。

それから東京書籍、この会社は学習の課題設定に合わせた資料、説明などが豊富な形となっており、見ると理解しやすい形となっている。それから単元課題があり、その単元のステップで学習の道筋が分かり、基礎的な、また理論的な知識や技能を養うことができるようになっている。様々な形で示されているのだが、歴史学習を通して歴史的な見方、また考え方といったことが、それぞれの生徒に合わせた形で読み深められていくということを感じている。私も帝国書院など他の教科書を読み、よいところはそれぞれあるとは感じたが、生徒に分かりやすく授業していけるなら教育出版だと思っている。

岩岡教育長

歴史に関しては、社会は学習指導要領を踏襲して社会的事象との意味や意義を考察したり推理するという事を超えて、その解決に向けて構想したりすると、それを地理的な見方、歴史的な見方、また論理的な見方と色々な見方ができるようになるというのが、学習指導要領の改定で目指している教育課程の目標なので、教科書については、そういった活動がしっかりとできるようになっているのかというところを見させていただいたのと、やはり鎌倉にとって分かりやすい特徴ということで鎌倉時代の取り扱いはどのようにするのか、それを見た子どもたちが身近なものとして感じていけるような取り扱いになっているのかというところで見させていただいた。種目数が多いので幾つかの教科書に触れさせていただくが、私として推したいと思っているのは、東京書籍の教科書になっている。まず本文も発達段階に応じて非常に平易で読み進めやすいということと、時代ごとに見開きで年表が書いてある。そこに登場人物の写真も入っていて、非常に時代の捉え方というのが分かりやすい形になっているというのが１点である。あとは先程のように、社会的事象の解決に向けて構想したりするということに向けて、対話的な活動が本文から段階的に組み込まれている。本文の中に盛り込まれた「みんなでチャレンジ」という探求活動から入って、単元のまとめに

ある「探求のステップ」という形で少しずつ探求を深め、章末に探求課題の解決策を構想したりするという活動に向けて少しずつステップしていけるような内容になっているというのが、素晴らしいデザインだと思った。またこういう、対話的活動は各社とも頑張って作ってきているので、どの教科書もよいのだが、対話的活動の、答えが決まっているものでないというのが非常によいと思った。例えば鎌倉時代であれば、鎌倉幕府は何故滅びたのか、幕府や社会の仕組みに着目して話し合おうという、オープンエンドのクエスチョンが用意されていて、そういったものは非常に歴史的に多面的な見方で歴史を捉えるという意味で、よいものであると思った。例えば、帝国書院とかも見開きでタイムトラベルとか、非常に興味を引く形になっており、「多面的に多角的に考えてみよう」というコーナーで、充実した対話的な活動が可能なのであるが、例えば本文に練り込まれているような対話活動、説明してみようみたいなところが、結局答えが決まっているものも多くて、その辺りが東京書籍は素晴らしいと思った。

育鵬社も工夫して作ってきており、各章必ず「このころ世界は」という項目があって、世界史との関係で捉えやすいような工夫をしていた。鳥の目で、虫の目で、ということで各章が始まって、世界との関係をミクロ・マクロで歴史の大きな流れをつかんでから、具体的に入っていって、歴史ズームインという形で特徴的な人やモノの見方を取り上げるという構成は、特徴的な教科書であると思ったが、東京書籍が少々上回ると思ったところである。

また学び舎の教科書も特徴的で、単元の題名も非常に生徒の興味を引くものとなっていて、最初の導入の書き方も、史実から入るのではなく、ストーリー仕立てになっているので、どの時点でも世界の動きに触れているし、子どもの興味関心を引き出しやすい面もあると思った。ただ、東京書籍の方は、先程の探究活動に向けた非常によい利点があるということと、鎌倉についてはかなりのページ数を割いてくれており、その理由はおそらく、仏教文化と生活を一つの単元としてまとめているような教科書が多い中で、東京書籍については武士や民衆の生活という章と、仏教文化のところと分けて両方書いてくれているというところで、充実した記載になっていると思うが、鎌倉の子どもたちにということであれば、東京書籍を推したいと思う。

下平委員

現在、帝国書院の教科書を使っているということでそこから読み始めたのだが、帝国書院はSDGsに関連する平和や環境についてのテーマ、未来的テーマが扱われていて、次の公民にも繋がりがよいと感じたのと、日本と世界の動きが同じページで紹介されていて、私などは日本史と世界史を別に学んだりすると、そこがどう繋がっているかという関連性がちょっと理解できていなかったところがあるので、非常によい作りになっていると感じた。山川出版社も鎌倉幕府の記述は非常に豊富に取り上げてくださっていると思ったし、日本文教出版は本文の下に連携コーナーというのがあって、そこできちんと地理、それから公民との関連が理解できるような作りを丁寧にしてくださっているというのが非常に素晴らしいと感じた。育鵬社では、女性の社会進出に注目しており、各章の終わりに「なでしこ日本史」というコラムがあり、大変印象深く楽しく読んだし、学び舎も巻末に年表が12ページに渡って、世界に関連付けて取り上げられているというのも、資料として非常に使いやすいと感

じた。各社とも魅力的な作りだったと思う。東京書籍さんは、皆さんもおっしゃったとおりなのだが、巻頭にSDGsが具体的に語られており、なおかつ日本に重要な歴史的な写真と繋げて説明してあることによって、こういう活動によってSDGsというのを成していける、大切にできるのだというのを考えられるように作ってあると思った。そういう意味でも東京書籍が魅力的だと思う。

山田委員

皆さまおっしゃってくれたことに加えて、私は最初、山川の教科書を非常に興味深く読み始めた。高校の教科書に非常に定評のあるところだと思うのだが、その点も一風変わっており、素敵な書体と装丁になっている。非常に内容が深い。それと、中に豊富な資料があるのだが、それぞれの資料が、地図だとか、図式にかならず設問がついていて、そこから読み取れるものを補助するような形でコーナーがあって、年表や資料の読み取り方を補助するようなところが、すごくよいと思った。単に図式があっても、それをどう活用してよいのか、どう読み取ってよいのか、分からない生徒もいるのではないかと思ったので、とても有効だと感じた。しかし深過ぎるとまでは言わないが、中学生のレベルには少々難易度が高いかとも感じている。あとは教育出版が、齋藤委員もおっしゃっていたが、タイトルが非常に興味深くて、面白そうと生徒が思うような、先程の地理もそうだったのであるが、中学生が直感できるような、楽しい教科書だと思っている。特にタイトルのところに、サブタイトルがあって、さらに上に年表が付いているので、今自分のやっているところが、全体の歴史の中のどの時代であるかということが一目で分かることは、とても使いやすいと思っている。東京書籍は確かに持続可能な社会を実現するために歴史から読み取るのだという姿勢が冒頭で掲げられており、教育長もおっしゃっているチェック＆トライ、そして探求設定をして議論していくという、活動が非常にしやすいものだと感じたので、私も最終的には東京書籍を推したいと思う。

岩岡教育長

意見が出揃ったのでまとめてまいりたいと思う。本当によく作ってきている教科書が非常に多くて、それぞれ各社の工夫が見られるというところで、教育委員の皆さまからも、東京書籍や帝国書院、山川、教育出版などそれぞれよい特徴を挙げていただいたのだが、SDGsの視点であるとか、探求活動を含めていくといった視点、また教科書としての作り方の適切さから、鎌倉の子どもたちにとっては、東京書籍という方向性であったかと思うが、それでよろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

社会（歴史的分野）については東京書籍を選定する。

それでは、次に社会（公民的分野）について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

社会（公民的分）について説明をする。検討委員会で６者の教科書見本本を検討した結果、教育出版、帝国書院、日本文教出版の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中でも特に、日本文教出版へのご意見が多く、検討委員会として１番目の推薦となっている。

まず教育出版について説明する。全体を通して SDGs と関連付けた構成で、終わりの章も、「私たちが未来の社会を築く」の学習に繋げられるようになっており、また社会とのつながりを感じられる意欲的な課題が用意され、より深い学びに繋げることができるようになっている。

続いて帝国書院について説明する。現代社会の課題を扱うコラムや、人物へのインタビュー記事が豊富に掲載されている。また難民をどう支援していくべきかなど、社会に通じる課題が設けられ、多様な立場を踏まえて自己決定する活動が用意されている。

最後に日本文教出版について説明する。教科書全体を通して、小学校・地理・歴史との関連付けが問いによって明記され、振り返りの学習や教科横断的な学習が対話的に行えるようになっている。またアクティビティなど社会に通じる課題が多種多様に用意され、さらに点字に実際に触れるページがあるなど、生徒の興味を引き出しやすい資料が効果的に掲載されており、社会参画への意欲を高められるようになっている。

岩岡教育長

社会（公民的分野）については、６者から選ぶということになるが、教育委員の皆さま、ご意見等あるか。

下平委員

やはり６者の中で非常に私も迷いながら、行きつ戻りつしながら検討を繰り返していた。結果として、私が最終的に推したいと思ったのは日本文教出版と、帝国書院と、教育出版である。教育出版も帝国書院も日本文教出版も、やはり SDGs をしっかりと取り上げていただいて、巻末まで貫いて、視点を表していると思った。やはり、今の中学生には変化が激しい時代の流れの中で、日本それから世界の現状というのを具体的に理解してほしいし、理解するだけではなくて今後の未来と積極的にどう関わるかという視点を大切にしてほしいと思い、そういう視点から中学生にとって分かりやすく具体的に色々な事例が取り上げられており、さらに対話的活動などを使って、しっかりと考えられる教科書がよい。

教育出版なのだが、幅広くヘイトスピーチとか LGBTQ、それから平和主義、クラウドファンディングのことや、メディアリテラシー、人権問題、それから在宅ワークなどについて非常に今の課題がたくさん盛り込まれていると思ったし、自分が変わることによって社会を変えていく提案という手法が、非常に考えさせられるよい教材だと感じた。

それから帝国書院は、「学習のはじめに」のところで、夢に向かってという問いかけがあるのだが、これは大切に読むことを刺激される、勉強のはじめに刺激されるよい問いかけになっていると思った。これからの日本や、今の課題というのが非常に明確に示されていると感じた。具体的には、例えば、オリンピック開会式・閉会式のディレクターを務めていらっ

しゃる野村萬斎さんだとか、ジャーナリストの池上彰さんなどの、「先輩たちの選択」というのが、非常に印象的なインタビュー記事として取り上げられていた。それから偏見と差別については、表彰をされた中学生の作文をそのまま掲載されており、同じ中学生として一緒に考えられるようになっていると思った。それから、今話題のクラウドファンディングも、中学生が巻き込まれるケースが増えている契約に対しての概念も学べるということや、非常に面白い問いかけとして、あなたが無人島に漂着したらというものがイラスト付きで色々と提案されているのだが、自分一人で生き抜くためにどうやっていくのか、無人島だと思っていったら原住民と出会った、そうしたらその人とどう関わっていくのかといったようなことが、一から考えられるようになっていて、非常に面白く、教材として活用して進められると思った。あとは一人暮らしに掛かるお金について具体的に考えるページもあり、これから一人暮らしをする可能性がある中学生たちが、これだけ現実にお金が掛かるのだということを見つめるきっかけにもなると感じた経緯である。

日本文教出版は、SDGs を非常に具体的に見開きとしていた。一つ気になったのは表紙ももちろんなのだが、中にも割と漫画が多いということが印象に残った。207 ページには介護保険の問題で鎌倉が取り上げられていたし、横浜市の学校も取り上げられているということで、鎌倉市の生徒たちが興味深くつきあえると思う。ネット社会とどうつきあっていくかとか、15 歳という年齢は子どもなのか大人なのかいうところを対話で考えるようなページがあったり、職業について具体的に問いかけがあったり、具体的に考える問いが添えられていて、活用の仕方によってはすごく学びが広がる作りになっていると感じたところである。

育鵬社の教科書は、色々な国の国家対比を通じて勉強するというところに私も興味を持った。それから日本の企業の技術力とアイデアをいかに世界で生かしていくのかというページも印象に残った。全体的に生徒たちの愛国心が高まるような作り、情報が多いというところも印象に残った。

各社とも大変よくできた教科書だとは思ったが、最初にお話したように、私は帝国書院と日本文教出版というところで迷っているところである。

齋藤委員

私は帝国書院を見て、それから他の会社も全部目を通して、よいところというのを拾ってきたというところである。まず帝国書院については、学習のはじめにということで「夢に向かって」というのがあり、これまでの学習を振り返り、公民での学習内容を紹介している。そして身近に感じさせて取り組めるようにしている。子どもの想い、心とか、視線に立っているということを感じた。それから現在の仕組みや決まりということを理解した上で、どのような課題が生じるのか考えてみる。その課題解決の紹介をしており、そして自分がどう関わっていったらよいかというところまで考えさせていくというよさがある。それから一人暮らしということについても、改めて自分で考えていくという部分があり、呼びかけて考えさせるというよさをとても感じたところである。それから学習内容を身につけるために、それぞれの章の学習の振り返り、終わったらそれが終わりではなくて、振り返ろうということで、見方や考え方、そしてそういった能力を働かせて、改めて考えていくというところで、思考力、判断力、表現力を付けていく。現代社会の課題についても、未来に向けてというよ

うな特設ページも作ってあり、対話的な学びや深い学びができるように作られている。そして資料等も豊富に掲載されているというところで、私は帝国書院を推したいと思っている。

教育出版についても、様々な工夫がされている。第１章のタイトルで、「私たちの暮らしている現代社会」において、現代の社会とは、つながる私たちの社会だというのを見て、広く世界に目を向けていく、そしてグローバル化とか、インターネットに対して、どう関わっていくのがよいかというところまで考えさせられるようになっており、教育出版も現代につながる伝統文化ということを考えると、つなげたい日本の伝統文化や、過去から大切に受け継がれてきたものをより大切にするこころを育てようという内容も含まれている。それらのことから、ここもよいと感じる部分もあったが、最終的には帝国書院とした。

朝比奈委員

公民を中学校から学ぶのに、子どもたちにとってどの教科書が一番適切であるのか、特に鎌倉の子どもたちに、全ての科目に言える訳だが、先生方がどの教科書を拠り所にしたら、一番バランスよく生徒を導けるか。生徒の学習に、どの教科書が一番バランスよく活用できるのかということを考えたいと思って色々と拝見した。やはり社会科の授業というのは地理にしても歴史にしても、自分たちが、日本人がどういう民族であるか、世界とどう違うのか、そういう自分が何であるかということを知る大事な科目でもあるかと思う。日本の伝統文化のことを、どの出版社も公民科目的には前半の方に出てくるわけだが、これが最もバランスよく出ているのは帝国書院であると思う。地図であるとかデータの蓄積だとか、その取り扱いが一番上手だと感じている。もちろん育鵬社にしろ、自由社にしろ、そういう伝統文化のことがより詳しく書かれていたりもするのだが、先生方がバランスよく扱うのに一番適しているのは帝国書院であると感じたので、私は帝国書院を推したいと思う。

山田委員

公民という教科は現代社会・法律・政治・経済・国際社会という、大きく分けて五つの分野として学ぶ教科だと考えている。その中でも私は海外の教育も見てきたので、そちらとの比較もしながら教科書を見た。特に色々な分野がある中で、経済というものに着目して見てみた。海外の教育制度では小学校から為替とか貯蓄の大切さなどを、色々な劇を使うなど、あるいはビデオ、色々な方法を使って学んでいる。もっと言うと幼稚園からもそういった金融、お金に対する考え方という教育がある。そこから中学校になると、すでにビジネスという教科が単体で成立しており、商売の仕組みとか会社の構成、社会における企業の役割などを学んでいく。高校になると専科として本格的にビジネスや、マクロ経済などを学んでいくというように、非常に経済に対する教育というのが手厚く行われている。そういうところが日本が少し遅れているところだと残念ながら感じており、公民の授業が唯一そういったところを勉強できる分野だと思うので、この授業を有効に利用して先生方が、金銭感覚だとか、経済の仕組みというのを子どもたちに教えてほしいと感じている。そういう意味だと、一つ経済の視点で見た時に、帝国書院が「パン屋を起業しよう」というものを取り扱っている。教育出版も起業にチャレンジしてみようということで、クラウドファンディングの可能性なんかも含めて、そういったことを扱っているのであるが、帝国書院は、最初に企画書を書

いて、その次にどのような形態で起業するかを考えて、最終的に資金をどう調達するかという辺りを段階的に扱っている。これが実際に子どもたちにとっても分かりやすいのではないかと感じるし、将来起業するにしてもしないにしても、その苦労を知っている事で雇われる側になった時に上司の気持ちとか、社長の気持ちとかも分かったりするかもしれないし、それからお金を稼ぐことの大切さ、難しさみたいなものもしっかりと学べると思い、私は帝国書院を推したいと思う。

岩岡教育長

公民に関しても社会共通であるが、社会に見られる課題を把握するという事を一つ越えて、その解決に向けて構想したりするというようなところが目標として今回目玉になっているのだが、その社会経済の在り方みたいなところから公民の教科書によって捉え方、思想が少し違ってくると思うので、今後、子どもたちが世の中に出て来たときに到来していくであろう社会というもの構想しながら、そういったものを前向きに捉えて、子どもたちが未来志向でそうした社会に前向きに飛び込んでいきたいという気持ちになれるかどうかというのを凄く重要なポイントとして見させてもらった。

私としては帝国書院を推したいと思っているのだが、理由としては公民の教科書として非常に作りが分かりやすい。見開きを使った効果的な表現だとか、章末の公民的見方を働かせた主体的対話的な活動。後は特徴的な技能を磨くというコーナーが現代社会を生き抜く上で必要な知恵が盛り込まれていて、本文自体が使いやすい教科書であると思ったのと、また帝国書院が全体を通じて近年の社会経済の変化よく捉えた記述になっていると思う。例えば金融のところで銀行の役割、直接金融のところを中心的に捉えている出版社が多い中、帝国書院は最初の見開きでクラウドファンディングが挙げられている。会社の資金調達の方法は非常に多様化してきているし、銀行からお金を借りるというものだけではないことも、生徒に対して伝えられるし、その他、ベンチャー化の話やフィンテックの話、家計管理の家計簿アプリなど、現在の金融経済の仕組みの潮流をよく捉えて構成していて、ワクワクするような中身になっていると感じた。また起業の企画書を書くコーナーで、パン屋の起業にあたってという山田委員からもご紹介いただいたが、一回きりではなくて、色々なところ、金融のところやその他の色々なところで繰り返しパン屋の起業というテーマで経営課題を考えるという取組が段階的に出てくるというところが素晴らしいと思った。これからの日本社会と経済というのはどの出版社にもある訳で、ここは教科書会社が裁量の大きいところなのだが、例えば東京書籍とかであれば持続的な経済成長という観点から公害の話が最初に出てくるのだが、これからやってくる社会経済、前向きに子どもたちが捉えて進んで行きたいと思った時に、今後 20 年先に何ができるかといったらデジタルトランスフォーメーションとか、ドローン、自動運転、AI、ロボティクスそうした環境の中でどういう経済活動をしていくのかという視点は欠かせないと思っており、帝国書院はまさに今後の日本社会の経済、そういったところを踏まえているというところが非常に素晴らしいと思う。鎌倉というのは伝統的な町ではあるが、クリエイティブ人材がたくさん住んでいて、これから革新がその他の地域より早く起こっている地域でもあるだろうと思うので、そうした鎌倉の子どもたちに適した教科書というのは帝国書院だと私は考えているところである。その他の

教科書もよいところはある。日本文教出版はビックデータと防犯カメラ、一国主義など現代的な課題も盛り込まれているし、東京書籍も先程あったが、日本人としてのアイデンティティとか公共の精神の重要性、文明の力といった内容については非常に深まった内容になっていると思うのだが、今後の日本社会経済の在り方にワクワク感や希望を持って未来志向で子どもたちが学んでいけるといった点を重視すれば、帝国書院だと思っている。

各委員のご意見が出揃い、帝国書院を推す声が大きい一方で、下平委員、日本文教出版と帝国書院で迷っているということであったが、これまでの委員のご意見を総合して下平委員はどのようにお感じになったか、ご意見いただきたい。

下平委員

どれになっても、遜色のないよい教科書だと感じているし、皆さんのご意見を聞いて、やはり未来志向、これからの生徒たちにとって役立つのはどちらかと考えた時に、皆さんのご意見を伺って、帝国書院ということとしたい。

岩岡教育長

それでは社会（公民的分野）については、帝国書院という形で選定させていただきたいというふうに思うがいかがか。

（異議なし）

岩岡教育長

それでは社会の地図について、担当指導主事より説明いただきたいと思う。

教育指導課指導主事

では、地図について説明する。検討委員会で２者の教科書見本本を検討した結果、特に帝国書院へのご意見が多く、検討委員会として一番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。全体を通して地図以外の表やグラフなどの資料が豊富で、歴史や公民の分野と密接に関連した資料が多く、資料を読み取る力をつけることへと繋がっている。

続いて帝国書院について説明する。版が大きく地図が大きくて見やすいので、広域な繋がりや位置の関係が把握しやすい。色も鮮やかで見やすく、地図内の文字や記号も読み取りやすく、授業で活用しやすくなっている。また地図にある地図活用のインデックスの課題を解いていくことで、地図を開く楽しさが生まれる。地図に興味を持ち、日常的に地図を開くことへの興味を抱かせるものとなっている。

岩岡教育長

地図については２者から選ぶということになる。委員の皆さま、ご意見をお願いしたいと思う。

朝比奈委員

地図としてどちらが見やすいかと言われたら、見たら確かに、東京書籍も情報が多くて、資料としてはすごくよろしいが、こと地図の見やすさで見ると、やっぱり帝国書院だと、私は感じる。地理の資料との連動とかもあろうかとは思うので、私は端的に帝国書院を推薦させていただきたいと思う。

下平委員

全体的にぱっと開いた時に、印象がかなり違う。サイズも違う。おそらく東京書籍は、どちらかというブルーベースで、帝国書院の方がイエローベースなので、帝国書院の方が暖かい感じがする。東京書籍は清潔感があって、全体的な印象の違いである。帝国書院は表紙の裏にどんと世界地図が載っていて、裏表紙をめくると日本地図がどんと載っていて、おそらく授業の中でさっと全体の地図を開くときには、これはすごく使いやすいのだろうというところを、重視して評価した。帝国書院は日本の自然災害と防災のページとか、地震や火山分布の見開きが結構ダイナミックに取り上げられていて、これらも活用していただけるのではないかと思う。全体に大きく、そして地図が朝比奈委員も言っていた通り、とにかくすっきりとしていて見やすいという視点から帝国書院を推したいと考える。

齋藤委員

東京書籍については、なかなか丁寧に書いていると思う。そして資料も豊富で資料を読み取っていく力を育てていくこともできると思う。今お話があったように地図のダイナミックに見開きになっているとか、よい所たくさんあるのだが、改めて読み比べていた時に、やはり帝国書院が大版で見やすく、そして地図活用「～しよう」という所で学習への導きがされている、そしてまた地図での学びの視点を明確に捉えて読み取ろう、考えよう、説明しようというところで発表しようという方向に繋がっていくことで、非常に活用がしやすいと思う。それから資料がたくさん載っているのだが、大版だからだと思うのだが、地図が大きく、またグラフ等もはっきり大きく出ていて、そこも考えていくと、子どもたちの考えを深めていくことができ、考えるきっかけを作ることもできる。学んだ事を整理する事もできる。とても効果的な学びができるのではないかと思う。色は綺麗であるし、のびのびした感じがするので、私も帝国書院がよいと思っている。

山田委員

今時はグーグルマップとかデジタルアプリの登場で、完全な道案内として実社会で地図を活用するというシーンは本当に少なくなったと思う。逆に小さなスマートフォンとかパソコンの世界では俯瞰して位置関係を捉えたり、そこから構想したり、統計の図と合わせて読み取るというようなことはいちいち別の資料を検索して読み取るというよりは、一目で見られる地図というのは改めて見てみると非常に便利だと思っている。見た目の地図としての活用と言う意味では私は帝国書院が大きくて見やすいと思っている。単に地図だけではなく、地図活用というのがコーナーとしてあり、その地形をどう捉えて読みとったらよいのかという理解がとてもしやすいと思っている。

東京書籍は資料集として、資料集がない場合はとても色々な資料が入っていて、地図に留まらない、より地図帳と資料集が合体したようなよい本だなと思っている。特に先程の山川のところでも申し上げたが、図をどう読み取ったらよいかという補助が東京書籍は男の子と女の子が問いかけている形で出ており、単体で読んだ時にそれが拠りどころになり、色々と考えられるものと考えているが、寸法が小さいところが残念と感じている。

岩岡教育長

私の意見だが、地図に関しては帝国書院と東京書籍で版が大きく違っている。東京書籍は版が小さいがゆえに地図の中に同じ情報量を詰め込もうとするとどうしてもフォントの間が詰まってしまって、地図の読み取りが難しくなるというところがあり、帝国書院の方が大きな地図の中でそれぞれの地名とか切り分けて見るという意味では大変読みやすい地図ではあると思った。また継続するというメリットは地図帳においては、非常に重要と思っており、地理の先生方も地図帳の何ページのあの辺に何々の資料があったというのが頭に入っておられると思う。授業、時間のない中ぱっと引きだして、あの資料を見せようと思った時に、やはり帝国書院であれば新学習指導要領の教科書になってもだいたいこの辺というのがぱっと開いて出てくるというようなこともあるので、全体を総合して、私としては帝国書院を推したいと思っている。

地図に関しては委員の皆さまご意見が出揃い、帝国書院ということで揃っていると認識しており、帝国書院という形でよろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

では地図は帝国書院を選定したいと思う。では休憩前最後の種目となるが、数学について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

数学について説明する。検討委員会で７者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、学校図書、教育出版の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中でも特に東京書籍へのご意見が多く、検討委員会として一番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。基礎の定着から応用問題までの流れがスムーズで、導入部分では身近な題材を取り入れることにより取り組みやすくなっている。また例題、類似問題、補充問題と、基本的な知識や技能をスモールステップで定着させ、応用力をつけて実社会に活用できるようになっている。また章の問題では習熟度に応じて取り組めるようになっており、身近な題材を問題として扱うことで、実社会に必要な問題解決能力を高められるような構成になっている。

続いて学校図書について説明する。例題が多く、解決も丁寧にされているとともに、「問い」「確かめよう」「計算力を高めよう」というページの中で基本問題が多く取り上げられており、基礎の定着を図り、習熟度に応じて問題が分かれているため、自主学習にも取り組み

やすい構成になっている。

最後に教育出版について説明する。章の導入課題「Let's Try」では、興味を引きやすい身近な題材を使っている。またイラストで生徒の声をガイドラインにしながら、自分の考えを伝えあう場面も設定し、対話活動の充実を図っている。

岩岡教育長

数学については私から意見を述べていきたいと思うが、数学は数学的概念を理解するといったところにとどまらず、言語活動がきちんとできるような内容になっているかという点を重視したいと考えたのと、また今後の社会、データの分析とか、そういったところが非常に大きな役割を担っていくという社会においては、数学的な考え方やスキルというのは必須になってくると思っている。これは数学が苦手なお子さん、得意なお子さんいらっしゃるかと思うが、皆さんしっかりと取りこぼさずに、理解できるような教科書となっているというのは非常に重要な視点だと思った。またデジタルコンテンツも重視した。今後、鎌倉ではGIGAスクール構想の一環として、タブレット等を全ての子どもに配付したいということで進めているわけであるが、その中では、やはりなかなか紙では理解が難しい図形の取り扱いだとか立体の取り扱い、展開図、そういったものについて大型の装置で映し出してお見せしたり、例えば、数学の教科書の中では分からない数学に関係することのインタビューをオンラインで見られたりとか、そういったものが密接に組み込まれていると、生徒の皆さん、教科書を通じて数学に対する関心が湧いてくるということであるから、そういったものの充実、あとはプログラミングとの連携、計算機の活用といった、現代的なそういったものの取り扱いについて、どういった課題になっているかという点で、見させていただいた。そういった視点では、私としては東京書籍を推したいと思っている。検討委員会の報告書にもあったが、基本例題、類似問題、補充問題、スモールステップできっちり定着させる内容になっていて、数学が苦手な生徒でも少しずつ理解を深めていける内容となっているし、余白が多いすっきりとしたデザインで問題にきちっと集中できる。また、鎌倉では学力の高い子も多いが、章末の問題では習熟度に応じて取り組めるようにもなっているというところを評価したいと思った。またデジタルなコンテンツも充実していて、立体図形、作図など、授業では進めやすいと思うし、「社会×数学」ということで、データアナリストのインタビューなどもオンラインで見られるような形になっているというのが、素晴らしいと思った。また、鎌倉で導入しているのはタブレット、iPad なのであるが、タブレット特有のピンチイン、ピンチアウトという操作があるが、そういった操作を使って図形の相似を理解する、GeoGebra という無償のソフトを使った、作図活動など計算機の活用についても配慮して盛り込まれており、使いやすく広まりもあって、バランスの取れた教科書だと思っている。そうした視点で見ると、例えば啓林館や数研出版などもデザインもよかったり、問題数が豊富であったり、動画コンテンツが充実しているというところもあったのだが、数学が苦手なお子さんから得意なお子さんまで取りこぼさず、しっかりと学んでいけるようなデザインになっているという観点で、東京書籍を推したいと思う。

他の委員さま、ご意見があれば伺いたいと思うがいかがか。

朝比奈委員

数学は、私は中学までは得意だったのだが、高校で落ちこぼれてしまった。なかなか数学的な興味を小学校から中学校に上がって子どもたち、生徒に持って臨んでいただきたい、そんな時に中学の先生が、どの教科書をお使いになってもきちんと分かるのだろうとは思うが、やはり必ず申し上げるのだが、バランスというのが大事だと思うので、教科書の構成上、結論で言うと、私は東京書籍だと思う。意外にこの学校図書は、なんだかクラシックな感じで落ち着いてよいのだが、紙の教科書だけではなくて、今それ以外の媒体をうまく使い分けるのだが、それももっとも色々な組み合わせが自由にできると思っている。私は東京書籍のバランスのよいところが実社会に必要な問題解決能力を高めるとか、習熟度において工夫されているのではないかと思うので、東京書籍を薦めたいと思う。

齋藤委員

私は、大日本図書について説明したいと思う。他もそうなのだが、特にこの教科書はじっくり深く学ぶことができるという感じを持った。そして、ここでは「確かめ」ということで、学んだことを確かめる。学んだ内容を確かなものにするというのがあり、そしてプラスワンがあって、生徒自身の能力、学びの度合、ここまで進んだ進度によって取り組んでいけるという学習の進度、それから習熟度に応じて取り組めるようになっており、そういうよさがあるということを感じた。それから活用、探求、発見そういった中で繋がり、広がり、それから数学の世界の中に入っていくということを考えていくと、とてもよいと思う。それから理科や社会へも繋がっているということ、数学だけでは終わらない幅広い考え方ができる教科書であるというよさを感じた。

東京書籍についてお話しすると、東京書籍は数学の学び方を学び、問題解決をし、数学的思考を育てていく力があると思う。それから考えてみようといったところがあったのだが、新しい学び、そしてその説明があり、それから例があり、問題がありということで、基本の問題がまとまっていて、思考の流れがよい。思考の流れがよいということは理解しやすいということで、考えて学習をすると、個人差に応じた幅のある教科書だということを感じたりした。それから色々なマークがあるのだが、その中でも、学年を越えた内容について示しているもの、他学年との繋がりを示しているものというようなことがあり、生徒の興味関心に応じて、学習内容を深めたり広めたりすることができる手立てがあるというところから、私は東京書籍がよいと思っている。

下平委員

今回、教科書を読んでいて、私が中学の頃と一番大きく変わっている教科書は、数学だと思った。ある意味、計算とかを人間の頭でする世の中ではなくなっており、やはりこれからの時代の子どもたちはICT、AI、それからデータの読み取り、そしてそれをいかに活用するかということなのだと思って、新しい学問を勉強するようなつもりで、一から大切に読んでみた。あとは、私自身が生徒の頃、教科書もあって表紙の印象とか、ぱっと最初に開いた見開きのインパクトというのは大きくて、そこでやっぱり好奇心をそそられると、教科書に対して愛着が湧いてくると思っていた。そういう意味では学校図書の教科書が、最初にぱっと

ページを開くと、非常に印象的な写真がたくさん掲載されていて、しかもそれを押しつけではなくて、数学的な視点に、ぎゅっと引きこまれていくような写真の使い方をしており、感じるもの、考えるものというのがあって、数学への誘いを上手く作ってくださっていると思って、すごく興味を持った。

大日本図書は、１年生には「できた、わかったことをたくさん挙げよう」とか、二年生では「考えることの楽しさを味わおう」、三年になると「考える力を一緒に伸ばそう」ということで、この教科書から生徒たちに何を学んでほしいかという訴えかけを感じることができた。最初にお話したようにこれからの生徒にはデータの活用とか読み解きというのが重要な分野になると思う。そういう意味でも各社取り上げてはくださっているのだが、特にその点が厚いと思ったのが東京書籍、大日本図書、それから数研出版もデータの活用、QR コードの読み解き方、ICT の活用、これも大切に取り上げてくださっていると感じる。東京書籍は各学年に渡って、データを活用して判断しようというページが丁寧であるし、標本調査だとか、コンビニのレシートからのデータをどのように活用するかという、中学生にも身近な入り方ができるようになっていると感じた。大日本図書もその点では、１年生からデータの分析があって、データの活用として国勢調査の標本調査なども取り上げられていらして、これも非常に興味深いと感じた。この教科書を活用して、生徒たちに数学的な視点、これから求められるものを養ってほしいというところ考えながら決めていたが、最終的には東京書籍、それから学校図書が印象に残っている。

山田委員

私が三つ候補に挙げたのは数研出版と日本文教出版、東京書籍である。数研出版は数学の専門書らしく ICT とのリンクが豊富で、演習問題が多くて内容が非常に充実していると感じた。巻末に必ず「数学旅行」というのがあるのだが、これが凄く面白くて LED 電球は本当にお得なのかとか、誕生日が同じ人がいるという確率はどのくらいかとか、私でも教えてほしいという情報がたくさんあり、そこには問題がなくて、今まだ問題に飽き飽きしている生徒がいたとしたら、読んで数学の世界が楽しめるというのが凄く切り替えになってよいと思っている。一方で数学が得意で、もっと余力がある方には「チャレンジ編」というのがあってここで応用的な活用ができると思う。ただ数学があまり得意ではない生徒が多い場合は小々難易度が高いかも知れないと感じている。

日本文教出版は「確かめよう」というのが随所にあって、小学校の復習から入っているところが分かりやすいと思った。後は「数学研究室」というのがあり、そこでパルテノン宮殿の黄金比とか、歴史と結びつけた題材とか、少し気になること、そして教養として知っているとよいことが得られ、先程の数研出版と同じように楽しんで学べる数学を楽しんで学べる環境が作れるのではないかと感じる。東京書籍の皆さまが言った事はところがあり、やはり使いやすいという事。それから３年生の教科書見開きのところで数学を通して皆さまの可能性を広げて欲しいのだという事を謳っていて、ちょっと３年生になって難しくなって数学が嫌になってしまいそうだなと思う方には背中を押してもらえるような文章ではないかと感じた。以上から、私も東京書籍がよいと思っている。

岩岡教育長

数学について意見が出揃ったが、東京書籍を推す事が多かった中で、下平委員から東京書籍と学校図書で少し悩んでいるということであったが、教育委員会の議題としては東京書籍を推すのが強いかと思っているのだが、下平委員はどう思うか。

下平委員

データの活用について等含めて、東京書籍を推すことでよいと考える。

岩岡教育長

では数学については東京書籍をする事でご了承をお願いしたいと思う。

（異議なし）

岩岡教育長

ここでお昼休憩にしたいと思う。12 時５分から再開は 13 時 30 分としたいと思うので宜しくお願いする。傍聴席の皆さま、会議室での昼食というのはご遠慮いただいて、昼食を取るのは学校外での昼食という事でよろしくお願いする。それでは休憩したいと思う。

（休憩）

岩岡教育長

教育委員会８月臨時会を再開したいと思う。午後の種目であるが、発行者数はそれほど多くないため、５種目やって、その後休憩をはさんで残りの３種目という形で進めてまいりたいと思う。まずは理科について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育センター指導主事

理科について説明をする。検討委員会で５者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、学校図書、啓林館の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。３者の中でも特に学校図書へのご意見が多く、検討委員会として一番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。縦長の版型を生かし、学習内容が概ね見開き２ページで示されており、学習する際の流れが分かりやすく構成されている。また鮮やかで大きく引き延ばした写真が掲載されていて、実際に目にすることができないことも、写真を見ることで生徒の興味を引くようになっている。

続いて学校図書について説明する。毎回の授業の課題と目標が明示されていて、生徒がこの授業がどのように進み、何を理解できればよいのかがよく分かり、各章の最初と最後にも学習の目標が書いてあるので、生徒が振り返りもしやすくなっている。実験についても丁寧に記述され、実験報告から結果、考察とスムーズに理解できる流れになっている。操作方法も見やすく、危険なので注意するべきポイントも目立つように記載されている。また「学びを日常に生かしたら」では、学習した内容を日常生活と関連付けて確認できるので、科学的

な思考力が育つようになっている。

最後に、啓林館について説明する。掲載されている写真に臨場感があり鮮やかであると共に、インパクトのあるものが豊富に掲載されている。

岩岡教育長

それでは理科について、５者から選ぶということであるが、下平委員お願いする。

下平委員

理科もどれも興味深く拝見したし、年々、全体的に厚くなっている印象があった。今説明にもあったように、東京書籍だけが特殊なサイズで大きい。その分やはり内容も盛りだくさんだし、写真もダイナミックなものが多く使われていると思った。そのほか東京書籍は最後にペーパークラフトで様々な好奇心をそそるような仕掛けがあったし、星座表とか、温帯低気圧とか、興味深く拝見した。「つながる科学」というフレーズで日常生活に理科の知識を生かしていくというところも、つながりがしっかりと認識されていると感じた。

教育出版さんは、非常に印象に残ったのは、大きく江ノ電の写真が掲載されており、それから「宮沢賢治と元素の序」というページがあるのだが、とても興味深く読めたと思う。

それから教育出版は資料も非常に豊富で、「ハローサイエンス」のページでは、単元ごとに科学者の方々の紹介などがあり、これも科学に触れられるというページだと思った。

それから大日本図書は、「暮らしの中の理科」というページに身近に理科の知識が感じられるような工夫が随所にあった。それから、神奈川県の資料が非常に多くて江の島だとか箱根なども取り上げられていたので、鎌倉の生徒たちが興味深く読んでいけると感じた。

啓林館も非常に表紙の迫力があるし、全体に迫力がある写真が非常に多かった。それから力試しの復習のページが充実しているし、最近の科学者たちの記事を掲載してくれているのも非常に素晴らしいと思った。ちょっと冊子も厚く、啓林館は、盛りだくさんな内容で先生も技量が問われるのではないかと感じながら拝見していたのだが、資料についても、知識を深めたい子どもたちには深められるような科学的知識に関する資料がしっかりとついている。

各社ともどれも魅力的なページとか工夫の部分があって、非常に選ぶのが難しいのだが、学校図書はやはり他と比べると薄めなのだが、表紙とよい中の写真といい、大変ダイナミックな構成になっている。非常にワクワクするようなページや写真等に工夫があるように思った。「理科のトリセツ」というページがあるのだが、そこでどのように理科という教科と付き合っていくかということが分かりやすく説明されていた。それから全体的構成として、他の教科書もあるのだが、課題と仮説をしっかりと立てて、それを最後にしっかり振り返りをするというような構成があった。「アイデアボード」というのが各学年についており、これも先生の使い方次第では、非常に使えるのではないかと感じた部分である。さらにはSDGsの視点も各学年随所に取り入れられているという点から、全体的に見て、学校図書がよいと感じたところである。

朝比奈委員

理科、科学について最初に東京書籍の縦長がすごく斬新でよいと思った。表紙の写真があったのだが、今時は縦長のスマホやタブレットをイメージしてというのだろうと思う。そのサイズ感が中でうまく生かされているかと思うと、若干そうでもないのかという気もしており、少し迷うところだった。私としては学校図書、これが大変オーソドックスなのだが、ポイント毎に実験のところで何ができるようなったかというのが、「Can do リスト」という形になっている。各社似たようなもので工夫しておられて、特に分かりやすく、大事なことだと思うのだが、科学的な、理科的な好奇心をさらに育てていくのによろしい作り方になっているのではないかと思い、学校図書を推薦させていただきたいと思う。

齋藤委員

まず、どの出版社もとても考えられるのが、子どもたちが興味を持って取り組むような形の流れの教材を持ってきているということで、魅力的だという感じを持った。やはり仮説だとか構想の観察実験分析、様々な段階を追って理解させようとしているものが多かったと思う。その中で例えば教育出版であれば、探求の進め方が巻頭に配置されていて、学習の流れが分かりやすくなっている。それから主体的な学びを支え、そして丁寧に表示された形で、基礎理論を養い、深い学びができるようになっているというところや、思い出そうということで小学校との接続を考えているところ、それからまた資料が多い。写真がとてもワイドで、普通だと流してしまうようなところで、立ち止まって、知識を深めることができるような写真や図が掲げられていてよいと感じた。

それから学校図書に関して面白いと思ったのは「理科のトリセツ」と書いてある。理科で何を学ぶのか、理科は学ぶとどうなるのか、理科でできるようになるのはなんなのだろうか。どうやって理科を学ぶのかというようなことや課題そして仮説、計画、結果、考察があり、また改めて振り返ることができる。そこで何ができるようになったのか、理科というのは面白い、こんなことも分かったというようなことが手に取るように分かる。そこが非常によいと思った。それから学び続ける理科ということを考えていくと、振り返って見て、そして教えて伝えていって、子どもたち同士も繋げていって、今までの学習内容や生活の中でのこと、仕事等のことで興味があること、それから他のお友達との意見交換というふうにして学習が深まっていくのではないかと思った。教科書もとても見やすく、アイデアボードというのがあり、これも気軽に自分が思ったこと、考えたこと、気がついたことを書き留めていって、それを元に学びの交換ができ、伝えあうことができる。そうすると今まで自分でも気が付かなかったようなことがますます深まっていくというところがプラスの形で学習が整っていく形がとれるのではないのかと思った。それぞれの教科書のよいところはあるのだが、今お話したことを考えていくと、私も学校図書を推していきたいと思っている。

山田委員

私事ではあるが、自分の中学の頃を振り返ると、理科というのはあまり興味を持てない教科で、実社会になって特に母親になって、子どもからあれこれ聞かれて、それに答えようとする中で改めて理科というのはすごく生命に密接に関わっている教科で、きちんと勉強し

なければいけなかったのだと非常に後悔している教科の一つである。また仕事において新たな価値を創造するにあたっても科学的な考え方、視点を持っていないとよいものは作れないであろうし、そうした意味でもなるべく理科で取り残されるお子様が出ないような教科書という視点で読ませていただいた。

そういう意味でいうと啓林館と東京書籍、学校図書が私はとてもよいのではないかと思った。啓林館は見るだけで結構楽しい、写真集という訳ではないのだが、臨場感があってダイナミックさを感じる鮮明な写真で、これを見ているだけでもサイエンスしている気分になれるというようなものであったと感じた。勿論中身も巻末の「探求シート」で図表に書き込んでボードが作成できるなど、よい工夫がされていると思った。学校図書は皆さまがおっしゃってくださったような利点があったと思うし、東京書籍は先程も話があったように縦長、細身の冊子になっているのだが、私は非常に見やすいと思った。横にびっしりと何列にも渡って色々な資料があったり文章があったりするものもあるが、これは縦長になるので非常にすっきりと流れていくというのか、読みやすいし、教科書の形としては非常によいと思っている。学校図書は学びを生かすとか、そういったところの使いやすさを考えて、皆様のおっしゃることも踏まえて、学校図書がよいと思う。

岩岡教育長

私の意見であるが、理科の教育というのは単純に理科的概念の理解というところから一歩進んで、サイエンス教育に必要な流れ、それから導入、課題設定、仮説設定、探求、実験、結果、考察と、サイエンスを行っていくのに必要な流れが徹底されているかどうかというのが一点だと思っている。また、ウィズコロナの時代で、なかなか実験などを時間をかけてやっていくのが難しいということもあり、ずっと続くわけではないにしても、当面の課題としてはあるので、ウィズコロナでも充実した理科教育に取り組めるようなデジタルコンテンツもきちんと盛り込まれているかというところも、見たいと思った点である。そうした観点で、理科に関しては非常に悩んだ。悩んだというのも、教科書を選ぶといった時に資料が多彩で、多様な引き出しが準備されている教科書を選ぶのか、それとも本文の基礎的概念がきちっと理解できるようにページ数が割かれている教科書を選ぶのかというのが永遠の課題で、各教科によっても違ってくると思うのだが、そういった意味でしっかりと基本的な概念を理解できるようにデザインされているのは学校図書であると思っている。

最初に理科の学習の仕方というところでページ数を存分に割いていて、導入、課題設定、仮説設定、観察実験といった必要な流れを生徒に身につけさせるものになっているし、あとは「Can do リスト」という語学教育に使われる概念を理科できちんと持ってきたというのは非常に斬新だと思う。理科的なものの考え方や理論が身につけられるよう工夫されている。あと特徴的なのは、一時間毎に目標やバックアップがあって、まとまりがある。これは非常に先生方、特に新任の先生方にとっても、教えやすいようなデザインになっていると思う。あとデジタルコンテンツ、顕微鏡の使い方など、QR コードを通じて充実しているというところであるので、学校図書はそういった観点で非常に学びやすい教科書だということを感じた。

一方で例えば啓林館、さきほど山田委員からもあったが、非常にサイエンスの関心を高める

というところで、意識して作っていただいていて、広がる世界のコラムとか、現代の科学者もしっかりと取り上げてくださっているとか、デジタルコンテンツも非常に多いという、観察や実験も非常に多く取り上げられているというメリットもあったものの、観察実験で言えば全部の学校にこの備品はないと思われるようなものとかも結構多くあって、取捨選択して取り組んでいく技量が必要というような気もする。どちらの方を重要視していくかということを考えた時に、まずは義務教育の教科書として一人も取りこぼさないと、全ての子どもたちがサイエンスに関する基礎的な技能や概念をしっかりと身につけて、今後の学びに結びつけていけるのは学校図書という気がしており、私も学校図書を推薦したいと思っている。

以上でご意見が出揃ったため、まとめに入りたいと思うが、皆様、東京書籍・啓林館・学校図書と非常に教科書のよいところの指摘が多かった中で、非常に学校図書を推す声が大勢だったと考えているが、学校図書を推薦するということでよろしいか。では理科については、学校図書を選定することにする。

（異議なし）

岩岡教育長

では次に、音楽の内、一般について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育センター指導主事

音楽には２種類が書かれているが、一般と器楽になるが、まず一般の方からご説明させていただく。検討委員会で２者の教科書見本本を検討した結果、特に教育芸術社へのご意見が多く、検討委員会として一番目の推薦となった。

まず教育出版について説明する。教材一つひとつの内容が深く掘りさげられており、全体的に説明が詳しく記載されている。写真資料についても大きく掲載されイメージをしながら学べるようになっている。

続いて教育芸術社について説明する。仕事と音楽との繋がりについて触れられ、制作者の苦労や著作権の現代社会の音楽の関わりを考えることができ、音楽に対する学びが広がるような作りになっている。また指揮の仕方、歌い方などについて段階に示されており、活動をする際に参考となるように記載されている。

岩岡教育長

それでは音楽一般については２者から選ぶということだがご意見いかがか。

齋藤委員

音楽の教育出版については、自分でも学習できるような形をとっているのだということを感じた。身近な中で自分の学習に役立てることができ、そして詳しい説明もあるということがとてもよいと感じた。それと我が国の自然や四季が美しく表現されているということ、それから写真がはっきり写されていて、説明文もとても丁寧で、曲が生まれた背景や作者の

想いや資料もあって、生徒の心を引きつける効果がある。大人的にもうっとりとするところもあり、子どもたちもよいと心から感じるようなイメージが豊かに、同時に歌を歌うこともできると感じた。それから学びのユニットというのがあり、学びのねらいとか学習する時や活動というような所を足していく、より学び深め、よりサポートしていく取り組みがなされている教科書である。

教育芸術社については、ピアノで語るということとか、楽器と人とか色々な音楽とはなんなのだろう、音楽を愛する心の育成に繋がるような教材がたくさん入っていた。それからキャラクターが説明して、興味を引くような工夫もされていて、軽い気持ちで入っていける、音楽を楽しむというところに入っていけるのではないかことで、興味を持ち新しい発見をできる教科書であると強く感じた。それで色々と書かれている内容を考えていき、教育出版社もとてもよいものだと思うが、学習を先生と一緒に進めていくということを考えた時に、教育芸術社を使っていければよいと感じた。

朝比奈委員

私もどちらかと言われたら教育芸術社を勧めたいと思う。理由はと言うと、どちらかを選ぶときに、本当に大きな違いがないというかもしれないが、比較してみたところ、検討委員会に凄く評価があるが合唱曲が豊富に取り入れられているのは、その通りだと思った。私も子どもの時に少年合唱団にいたこともあるので、学校における合唱の大切さは分かっているつもりなので、それは是非その方がよいと思っている。後どっちもどうしても日本の音楽教育というのは西洋音楽ばかりが重点になりがちになり、いわゆる邦楽にも触れてはいるのだが、どちらがその辺りのウェイトがあるかと言えば、教育芸術社のほうが邦楽も丁寧に取り挙げてくれているように思ったので、現場で先生がどこまで生かして下さるかにもかかってくるのだが、私は教育芸術社を推薦させていただきたいと思う。

下平委員

これは本当に選ぶのが大変で、どちらも大変魅力的な教科書だと感じた。私個人の好みとしては教育出版である。これは本当に好みで大変申し訳ないのだが、強いて言えば音楽らしいということ。表紙も鮮やかだし、音楽らしいということで、教育芸術社のイラストも魅力的ではあるのだが、音楽らしさは伝わって来なかった。どちらも新旧、和、洋とバランスよく様々な音楽が取り上げられているのだが、教育出版は今若い方が興味を持っているラップだとか、後はゴスペル、ブルース、ロック、ジャズ、フォーク、ウェスタンと本当に幅広く１年生から出会えるような物になっていて、音楽に触れる視点が凄く豊富でよいと思った。ただ教育芸術社の素晴らしいところは、表紙の見開きのところから野村萬斎さん、松任谷由実さんやマリア・ガラスさんといった非常にその方面で活躍している音楽家を取り上げてくださっているところ、また先程もあったが、活動する時に手掛かりするような色々な知識が豊富に入っており、発声、発音、音作りがそうだし、そういった意味でいうと私の専門ではないのだが、音楽科の先生が活用しやすいという視点で考えると教育芸術社がよいのではないかと考えていた。また資料も豊富で、SDGs についても少し触れられていただけるものと感じていて、とてもよかったと思う。

山田委員

私も下平委員と同じで単に楽譜だけではなくて、音楽にまつわる教養という視点でいくと教育出版が非常に魅力的で複合的であると感じている。想像できる音楽年表というものも非常に有名な音楽家などがうまく取り上げられていて分かりやすいし、魔王の取り上げ方なども非常によい写真が入りながら、子どもたちにとって音楽の教養を高めるということでは本当によい教科書であると思う。ただ、私も音楽専門の先生ではないし、専科の先生方が教えやすいというのが一番の重要な点であると思うし、先程お話があったように曲目は若干こちらの方が充実しているかと思うので教育芸術社がよいと思う。

岩岡教育長

私の意見であるが、音楽の魅力をしっかりと伝えられるということと、音楽文化についての理解を深める学習というものがしっかりとできるかどうかという視点で拝見させていただいている。教育出版と教育芸術社と両方ともだが、社会と音楽の関わりというところについては取り上げる題材は少し違うとはいえ、両方ともしっかり入っていると感じており、その上で何をもって決めていくかといった時に、音楽自体の教えやすさといったところで現場の先生方がどのように思っておられるのかというところを見ると、検討委員会の報告書で、そこは教育芸術社が非常に高く評価されている。実際に教科書を拝見させていただいても、特に教えるのが難しい日本の民謡といったところも、抑揚のつけ方を上手く生徒が理解できるように工夫がされていて、音楽教育に関して造詣の深い教科書となっていると考えており、教育芸術社を推したいと考えているところである。

以上を踏まえ、今回も教育出版と教育芸術社、両方よいという立場で非常に悩んだところではあるが、皆さまのご意見としては教育芸術社ということで一致をしていると思うが、それでよろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

それでは器楽について、担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育センター担当指導主事（器楽）

では、音楽（器楽合奏）について説明する。検討委員会で２者の教科書見本本を検討した結果、特に教育芸術社へのご意見が多く、検討委員会として一番目の推薦となった。

まず教育出版についてご説明する。世界の楽器が豊富に取り上げられ、調べ学習においてそれぞれの楽器の違いを知ることができるようになっており生徒の興味を引く構成になっている。ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの音の高さの違いや、ギターコード譜なども視覚的に分かりやすくなっている。

続いて教育芸術社についてご説明する。伝統的な音楽から現代の音楽まで幅広く展開している。日本の楽器についても豊富に取り上げられ、普段使わない楽器についても説明が丁寧にされていて、学習に取り組みやすくなっている。特に鎌倉市の中学校で活用していきた

い琴について楽譜が見やすく多岐に渡る奏法や曲が掲載されており、生徒が興味を持ちやすくなっている。

岩岡教育長

では器楽に関してご意見を、齋藤委員お願いする。

齋藤委員

まず教育出版は、和楽器と西洋楽器を多く扱っており、何が同じで何が違うのか、吹く楽器、弾く楽器の仲間として分かるよう、発展して知識を広めて意欲的になるところに工夫がされていると思った。それから、様々な音色と響きと奏法が大きく掲載されていて、意欲的な学習へと広がっていくのではないかと思った。そしてもちろん、リコーダーや打楽器、琴など、どうやったら弾けるようになるのかとか、指使いはどうすればよいのかということまで、とても丁寧に分かりやすく示されている。写真が綺麗で興味を引く、学ぼう、弾けるようになりたいという動機づけになるのではないかと思った。それから歌唱や鑑賞にも扱われている歌が取り上げられていて、興味を引く内容になっているということである。

教育芸術社だが、こちらはまたよいところもある。親しみやすい形になっているということ、基礎・基本を大事に扱って、指使いなどが一目瞭然ではっきりするような形で気軽に取り組めるような形になっている。そういうところからいくと、指揮者とかリズムだとか体験授業をたくさん取り入れてより実感を伴う学びができるように構成されている。そのような点から学習目標ということで、活動、音楽を語る要素が分かりやすく並んでいて、確実な学びができる。最後に、和楽器や打楽器の奏法などがしっかり説明されていて、生徒は抵抗なく楽しみながら取り組めるようになっていたというところを感じた。私は両社共によいと思いながら、推薦は教育芸術社を選ばせていただく。

朝比奈委員

私は教育芸術社である。器楽の教科書になるので、より器楽の楽譜の説明が詳しく細かく、邦楽から洋楽まで、幅広く紹介されているのが教育芸術社と思ったので教育芸術社を推薦したいと思う。

岩岡教育長

私の意見だが、器楽であるから楽器の演奏といったところで少しでも生徒たちがよい演奏ができて、楽器を弾くのは楽しいと思うような工夫がどうされているかをいう視点で見ると、教育芸術社にリコーダーの演奏のところ、奏法などが丁寧に記載されているのと、きれいな音を出すためにというところでQ&Aが充実して記載されており、生徒たちよい演奏するために、つまずきやすいところ、気になるところが丁寧にケアされているという点で、教えやすいだろうと感じた。それと後は1ページにバンドスコアについてまとめていて、モンゴル 800 の曲などが入っているのだが、中学生になるとそういうものにも関心を持つことも多い中で、それをきっかけにして器楽の演奏に関心を持つということは大いにあると思うので、教育芸術社がよろしいと考えているところである。

山田委員

私も同様に教育芸術社である。確かにコロナのことで先行きが見えない中で、もしかしたら音楽などは、集団で歌ったり、楽器を演奏したりというのも難しいかもしれないが、何か取り組めるとしたら、より学習しやすいという視点でいくと、教育芸術社がよいと思う。

岩岡教育長

意見が出揃ったのでまとめていくが、器楽に関しては教育芸術社で皆様の意見が一致しているのでそれでよろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

では器楽に関しては教育芸術社を選定したいと思う。次に美術について担当指導主事より説明をお願いする。

教育センター指導主事

検討委員会で３者の教科書見本本を検討した結果、特に光村図書へのご意見が多く、検討委員会では一番の推薦となった。

まず開隆堂について説明する。絵画・彫刻等の制作・表現だけではなく、鑑賞について普遍的な作品が扱われており、美術文化と社会のつながりについても考えるきっかけとなる内容になっている。特に日本絵画については作品数が充実している。

続いて光村図書について説明する。様々な技法が紹介され、表現の仕方が丁寧に説明されていることや制作に取り組みやすくなっている。豊富に掲載された生徒作品には制作過程の悩みや工夫も記されており、作品制作の参考になる。また制作時に気をつけたいところなども細かく取り上げられており、学習するうえでの注意点が分かりやすくなっている。

最後に日本文教出版についての説明をする。生徒作品等の参考作品が豊富で作者のコメントも掲載されていることで、身近に感じられるようになっている。偉人の作品についても大きく掲載され、作品の迫力を感じることができるのと視覚的にも分かりやすく構成になっている。鑑賞に対する興味を持つことができるようになっている。

岩岡教育長

では委員の皆さまで何か意見がある方はいるか。

山田委員

美術という教科は一見専門的な分野に見えがちなのだが、この古美術から現代アートというものだけではなく、デザイン、工芸、建築、写真、漫画、アニメーションといったこと、さらには実態のないコンセプトもアート作品にあるので、非常に芸術という分野だけではなく、広く社会に関わる分野だと思っている。最近ではビジネスの社会でもアートシンキングとか、アート的な発表でクリエイティブに事業を創造していくことが重要視されていて、

AI にできないクリエイティブな発想というのは全員が持つべき人間ならではのスキルではないかと考えている。さらに文化というのは、その国の歴史に紐づいた芸術を所有することが国の力になり、その国のアイデンティティにつながるというものだと思う。そのため、国際社会でアートや芸術が多くの投資や社交のツールに繋がると思っており、その前提で国際的な学校教育ではアートヒストリーとか鑑賞技術というのが一つの独立した教科として行われていて、幅広い生徒たちがそういったものに触れて、造形を深められるような環境にある。その点の日本の美術教育というのはまだまだ遅れており、環境と学習の部分がごっちゃになっているため、教科書もそういった作りになっている。それで生徒にしてみると取り組みにくい部分があることは懸念している。そういった世界の情報をなども踏まえて、先生方には極力、アンテナを張っていただいて多くの生徒の興味を広げて、将来の豊かさにつながるような事業を展開して欲しいと願っている。そういった視点でこの三つの教科書を見比べた。

まず開隆堂は、「発見と創造」、２、３年生になって「探求と検証」というように最初に感覚を目覚めさせて、その後、美への理解を深めていくという生徒の発達状態に合わせた構成になっていると思う。ゲルニカはどこの教科書も大きく扱っているのだが、開隆堂はよりこの一つの作品を奥深く掘り下げているという印象であった。また中にはダミアン・ハートというような有名な現代美術の作家も作品だけではなく本人の顔写真と合わせて、なぜ彼がこうなったのかということをしっかり解説しているところも好感を持てた。最初は作品と作家がセットになっていて、このような形態はとてもよいと思うし、他の作品についても先生方が作家の写真などを少しネットの教材等を活用して提示するなどして、なるべく豊富な授業展開をしていただきたいと感じている。

日本文教出版だが、こちらは評価の高い作品の写真が非常に多くダイナミックに掲載されていて、情報量も冊数が多いだけあって、鑑賞芸術に適していると思う。例えばこちらの 22 ページの何故これが美術なのかというところで電気とか、プールとか何故こんなものがアートなのかという部分をしっかり投げていて、子どもたちは議論しやすい題材なのではないかと思う。社会に生きる美術の力では科学者や料理家など様々な分野にとってアートが意味のあることが分かりやすく書かれている。

光村図書は彫刻刀の扱い方など様々に見本が掲示されていて表現の仕方も分かりやすく丁寧なのだが、作品の数が少ないという印象である。特に世界的に力を持っている現代アートの扱いが少ないことが残念だと感じており、私の感想としては日本文教出版を推薦したいと思う。

下平委員

それぞれ各社ともそれなりの考え方があって、すごくよい作り方をしてくださっているなと、それぞれの持ち味を感じたが、私も山田委員と同じく日本文教出版を推したいと思う。検討委員会では光村図書がよいということであったが、光村図書は教科書としては活用しやすくなっていると思った。技法とか表現方法が丁寧に説明されているし、身近な生徒作品なども豊富に取り入れられているので、この教科書を使って実際に授業を展開していくことを考えると本当に捨てがたい、よいところを持った教科書だと感じた。ただ、やはり日本

文教出版はサイズが大きいというのもあるし、表紙からとてもインパクトがあって、真珠の首飾りの作品が掲載されているなど、３年生では同時多発テロが 2009 年にあって、その解体された建物のそばに新しくできたもので、非常にアートセンスのあるもので、現代社会の色々な側面を捉えたものが掲載されている。そういう意味で中を読んでいくだけでアートセンスというのが醸し出されてくるような感じがすると思うし、そもそもその大きいところに見開きで大きなゴッホの作品が掲載されており、鑑賞にも有益な、興味をそそられるような作りになっていると感じる。また仏像を取り扱ったところもとてもよいと感じた。あと、３年生の「あの日を忘れない」というのがあって、東日本大震災の時に思いを寄せた作品などは、本当に心を揺さぶられるような作品、捉え方、説明になっており、これは色々な意味でよい刺激になると思った。そういう意味で、色々な側面を刺激される教科書として日本文教出版を推したいと思う。

齋藤委員

最初に開隆堂の説明をする。開隆堂は色々なジャンルのものが沢山入っており、説明もとても丁寧になっている。振り返ればそれを基に自分たちで何かを作っていきたい、作っていこうといったような制作意欲を燃やす、そんな取り組みになっている内容だと思ったし、自分の物として作っていこうというようなこと、意欲を持たせることのできるようになっている、感想のところも見やすくてよいという思いを持った。

それから日本文教出版については、やはり先程から出ているように、作品がとてもダイナミックであるということ。それから生徒作品の説明があり、こんなふうに作っていくのかということを納得でき、言いかえるとインパクトが強いというか、そういうものが掲載されているということ。それから視覚的に興味を引くような表し方がされていると感じた。美術館へ行こうというところでは、やはりガイドブック的な形になって、教科書だけではなく、外へも目を向けていく。活動的に別なものを求めていこうという成長をさせるような取り組みになっているというところで、私も日本文教出版を推したいと思っている。

朝比奈委員

私は日本文教出版である。日本文教出版だけ２、３年生だけ上下巻に渡って冊数が多い。より細かいことが説明されている。美術の授業、美術の専科の先生というのは、ご専門が何になるのかによって、掘り下げて指導できる限度というのはあるのかと想像するわけなのだが、その中で、ほぼ考えうる全てが日本文教出版の３冊にあるのではないかと思うわけである。美術の授業を通して、生徒に何を分かってもらいたいかというと、色々な視点があるとは思うのだが、鑑賞力もそうだし、創作力もそうだし、その中で鎌倉市の生徒が親しく感じていただきたい仏像のところ、しかも文化財修復のことも出ている。そこがユニークだと思った。修復に関してのところというのは他社にはなかったように思う。こういうところも先生がどこまで掘り下げてお話してくださるかにも関わっているが、ぜひ鎌倉の生徒には、文化財が非常に身近にあるわけなので、そこも含めて体験するものがすぐ側にあるわけなので、それを生かして、私も湘南の芸術文化振興財団に属しているが、ぜひ小さい時から美術に親しんで、文化財、芸術、そういったもの、音楽もそうなのだが、そのまま教養として

身に付けるだけではなくて、実際に仕事として成り立たせる方々もいるわけで、そういう方々を積極的に支援できる意識を持てるような、そういうことも小さい時から知っておくのは大切なのではないかと感じており、ぜひ日本文教出版を使っていただけたらよいと思った。

岩岡教育長

私の意見であるが、美術に関して山田委員のおっしゃったとおり、アートに関するセンスとスキルといったところは、全ての社会人に必要となってくるスキルではないかと思う。まさにスキーム教育というのは最近言われている、サイエンステクノロジー、エンジニアリング、パート、マスであるが、ビックデータとかAIとかロボティックスが発達していく世の中では、分析やものをつくるという、実行力、体力というところは教育がどんどんとされていて、その中でどんどん人間らしさが増していく。人々のアート的な発想であるとか考え方美しさが製品に反映されていくということは、非常に重要になっていくので、アートというものを専門的に職業とされている方以外の方でもしっかりと身に付けていくということは重要なのだろうと思っている。

美術の教科書を見る上で、いくつか見る視点があると思った。鑑賞、教養としての美術、鑑賞にどれだけ力を割いているか。また生み出すというところにどれだけ力点が置かれているか、そこからの繋がりになるが、普遍的な作品が多く取り上げられているか、それとも生徒作品が多く取り上げられているか、また新しいアートへの感受性がどうなっているかという視点で見させていただいた。開隆堂は普遍的な資料を中心的においていて、その中で鑑賞を深めていくという点では非常によい教科書だと思っているわけなのだが、アートを生み出していくという視点に立てば、例えば日本文教出版の折り込み資料で、大版でまずその大きな作品を楽しめて、また豊富な生徒作品が、こういうのが生徒に作れるのなら私も作ってみたいと思えるような豊富な生徒作品が、非常に多いということ。また生徒が身近に、一番接しているアートとはなんぞやと考えた時に、私は写真だろうと思う。皆さんスマホを持ってインスタグラムとか、映えるとか言って、写真を載せていくわけである。構図やライティングやフィルタリングなど、工夫してやっている、それはアートの一つ。そこから入っていって、実は絵画にも同じ様な構図があり、その構図を生み出すためにどういう技法があるのか、どこから光が当たっているのかといったように、考えるきっかけになっていく。アートへの入り口として非常に写真がよいと思っているのだが、一部は写真に非常にページを割いていて、構図の取り方やライティングなど、非常にその写真の資料とともに多角的に記載がされている。今後、鎌倉市はiPadを入れる活動をしていく中で、子どもたちが校庭までiPadを持っていって、色々な構成・ライティングを考えながら、撮ってきて、それをお互いにディスカッションするというような豊かな活動のもとになる教科書であり、ぜひ日本文教出版を使っていただきたいと思っている。では意見が出揃ったのでまとめるが、検討委員会からの報告では光村図書に◎ついているところだが、日本文教出版、開隆堂についても鎌倉市にふさわしい教科書であるという評価をいただいていて、教育委員の皆さんは日本文教出版を使ってほしいというご意見であったが、そうしたことでよろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

それでは美術については日本文教出版を選定いたしたいと思う。では休憩前最後の種目、保健体育について、担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

保健体育について説明する。検討委員会で４者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、大日本図書、大修館書店の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中でも特に東京書籍へのご意見が多く検討委員会として一番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。運動やスポーツの多様性の内容では、歴史的熱戦や様々な人々が運動に親しむ様子が示され、共生の観点から、多角的で多様な関わり方を考えられるようになっている。また巻頭には生徒が QR コードを利用してインターネットを使った学習が進められるように一覧でコンテンツが示されている。

続いて大日本図書について説明する。全体の構成では見開きで一単位分が示されている。左ページが文章、右ページが資料等の構成となっていると共に、資料やイラスト内に説明する文章が挿入されていて、生徒が理解しやすくまとめられている。

最後に大修館について説明する。各項目のコラムや事例、保健の窓で、人物を取り上げ、その人の思いや考えを紹介している。また実習のページでは資料に写真やイラストを豊富に用いて実際の動きや方法が可視化されており、実感の伴った知識に関連付けられる構成となっている。

岩岡教育長

保健体育については４者から選ぶことになるが、ご意見いただけるか。

下平委員

どれも魅力的だったと思うが、全部読み解いて、比較検討した上で私は東京書籍を推したいと思う。まず、第一にこの教科書だけが、４者の中で、いわゆる目次の並びが保健・体育の並びだった。もちろん学校の状況で、先生の使い方でそれぞれ必要な項目を取りだすのだと思うのだが、特に今、感染拡大の状況の中にあって私たち、日頃からの予防とか、健康を自分で保持する力とか、体力をつけておくことの重要性というのを、改めて感じていると思うが、例えば健康を作るということをトップに載せているのと、最初の巻頭のところにも支え合って生きていくのだという、共生の考え方というのが掲示されている。実際に中の作りも非常に、心の発達や、心の健康と自己形成、ストレスへの対処、これらに関しては各社取り上げてはいるのだが、私は心理学の専門なので、その視点から見ても、非常に丁寧に取り上げてくださっていると感じる。それからちょうど中学生くらいになると様々な欲求というものとか、いわゆる好奇心が湧いてくる時だが、そういう自分の心と付き合い方というのも丁寧に入れてあると思った。そのほか、最近、中学生などでも問題になっているネット依存の問題とか、LGBT の問題を取り上げられていて、性の多様性についても取り上げられて

いるし、母体の神秘についても触れられている。それから感染症に関しても取り上げていて、非常に共生社会というものを見据えた上で心の健康にも非常に力を入れている教科書になっているということが印象に残った。さらには身近に、日常生活でこうやっていこうという呼びかけのページもあり、インターネット学習もできるような工夫がなされていると思った。

他のところも魅力があって、さきほど指導主事もおっしゃったが、大日本図書は左に文章が集中していてというのも、自然の流れとして学習する時に見やすいと、使いやすいと感じたし、世界で活躍する人々がダイナミックに取り上げられていて、これも来年度オリンピックパラリンピックが開催されるといよいが、そういう時期に子どもたちに大いに刺激になると思った。

大修館は、金澤翔子さんの書が非常に印象的に使われていたし、また、今の状況をさながら予見するかのように、感染症に関して大変丁寧で、予防とかマスクの正しい使い方なども取り上げてあって、この時期を経験した子どもにとって参考になるものと思う。

学研ももちろんなのだが、具体的にそれぞれの章で学びが進むように、大切なことはどれも漏れなく書いてあると思ったところである。ただ、先程申し上げたように、心の発達、共生社会への考え方とか、そういうものを通して魅力があると思ったのが東京書籍であると感じている。

齋藤委員

保健体育だが、私も東京書籍がよいと感じている。それから教科書を見た時にこの表現、この写し方は、納得できるとか、きつくなってないかとか、そういう観点でも見ていた。それを考えていった時に東京書籍の表し方はよいというのが第一印象であった。それから学習について、表現できると、まず見つける、課題を解決する、そして活用して自分自身の考え方だとか行動を広めていくことを考えていけること、いわゆる学習の見通しが持てて、幅広い学びができる、深い学びの中に、色々な体験していくことができるのではないかということで、本文の内容を理解しやすい資料だとか、グラフ等々がたくさんあって、的確で分かりやすくなっているということ。それから一章二章の章の後に資料として、「学習のまとめ」が設けられていて、記入しながら充実した形の学びができる用に作られているということから東京書籍を私は推したいと思っている。

朝比奈委員

私は東京書籍なのだが、保健体育の教科書というのは、もちろん授業で使ったあとでも、とっておいて色々な調べものに使うものにも大事なものがいっぱい書いてあるので、先生の授業でなくても自分たちでも見返したとしても、整理されてより分かりやすいのは、東京書籍だと私は感じた。学研もうまいとは思ったのだが、前回はグラフィックがきれいでこれもよいと思わせるようなものだったような気がしたのだが、今回、拝見すると割と控えめな作りになっているので、社内で何か考えが変わってこういう体裁になられたのだと思うのだが、いずれにしても私は東京書籍を推薦したいと思っている。

山田委員

私はどの教科も躍動感があるアスリートの写真を使って、まず心身の健康の大切さということを謳うところから入っていると感じている。その中で、東京書籍が、性、男女、それからそれに伴う欲求とか心とか、意外と早期に教科書でもはっきりと扱っていると思った。資料が豊富でありながらもとても読みやすいという印象がある。大修館もとても内容が豊富でよいと思うのだが、先程の東京書籍は各章の終わりに確認の問題があって、理解度の確認や学期末試験などがある場合には振り返りやすいような仕組みになっていると思うので、東京書籍を推薦したいと思う。

岩岡教育長

私の意見だが、保健体育については、保健から始まるか、体育から始まるかというは教科書の裁量があり、先程、下平委員からご指摘があったが、体育から始まる会社が多い中で、東京書籍は保健から始まっているというのが特徴的な所である。１年生の体育のほうは、どちらかというとスポーツの多様な参画とかそういった方向性の内容で、実は少し大人っぽい内容かと思っている。一方で保健の方で１年生は、性、健康、ストレス対処といった、生徒の生活習慣や多様なものの見方という身に付けさせたほうがよいコンテンツでもあるので、保健から始まっているという意味でも東京書籍がよいと感じた。東京書籍であるが、唯一、性のところでは性の多様性について触れている教科書になる。おそらく今学校で学んでいるお子さんの中でも自分の性の多様性に悩んでいるお子さんはいらっしゃって、そういったお子さんが勉強していく中で、こういったところも触れてくれているのだ、ということで心が少しでも楽になる、また周りの子どもたちもそういったことについて理解が深まるというのは非常に重要なことだと思うし、あと発展の内容が非常に必要なものが多くて、母体の神秘として乳児の発達のこととかを取り上げてくれているし、熱中症予防についても発展の内容としてしっかりと取り上げられているということでこれは非常によいと感じた。また、最後、私の決め手となったのは、デジタルコンテンツ、特に異性の尊重であるとかデートDVについて取り上げている動画であるとか、人工呼吸などは明らかに動画の方が分かりやすいし、また薬物乱用体験者のインタビューであるとか、リラクゼーションの方法などを非常に効果的に導入されているということで、東京書籍を推したいと思っている。

それでは委員の皆様から意見を頂いたが、保健体育については東京書籍で意見が一致していると思うが、よろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

それでは保健体育については東京書籍を選定させていただく。それではここで一旦休憩とさせていただく。

（休憩）

岩岡教育長

それでは教育委員会８月臨時会を再開する。では次に、技術・家庭（技術分野）について担当指導主事より説明をお願いする。

教育指導課指導主事

それでは技術・家庭（技術分野）について説明をする。検討委員会で３者の教科書見本本を検討した結果、特に東京書籍へのご意見が多く、検討委員会として１番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。ガイダンスでは写真が豊富に掲載されており、「最適化の窓」では技術分野での見方・考え方となる視点が豊富に示されているので、生徒が主体的に学習に取り組む事ができるようになっている。またネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツや、計測・制御でのプログラミングでは写真が多用されており、テキストプログラミング、ビジュアルプログラミングの両方を分かりやすく例題として掲載されている。

続いて、教育図書について説明する。技術の学習内容に関わる材料と加工の技術、制御・複製の技術、エネルギー変換の技術、情報の技術の４つが、作って学ぼう、じっくり学ぼう、学びを深め生かそう、という同じ構成になっているため、生徒が何の学習をしているのかという学習意識を持ちやすくなっている。

最後に開隆堂について説明する。学校ではなかなか見せることのできない木材の種類 12 種類、植物の病気や害虫について 10 種類の画像が掲載されており、特徴を詳しく見ることができ、生徒の興味や関心を引くことができるようになっている。

岩岡教育長

では協議に移りたいと思うが、技術・家庭（技術分野）で、安良岡前教育長は技術の先生だったということもあり、敬意を込めて、私からお話させていただきたいと思っている。技術に関しては、小・中学校でプログラミング活動というものが入ってきたことも踏まえて、中学校の教科用図書でプログラミングがしっかりとコンテンツとして盛り込まれるようになったというのは非常に素晴らしいことだと思っている。プログラミングの内容については、各社、どこまで踏み込んだとか、取り上げ方に差があるので、そこを重点的に見た。ものづくりといった観点でいくと近年のものづくりというのは大きく変わってきている。私も一応、サンフランシスコにあるオートベースという、3D モデリングを作るソフトウェアのリーディングカンパニーと今後の教育のあり方をディスカッションしに行ったことがあるのだが、大きなものを一気に設計して、それを大きなロットでたくさん作ってコストを下げるというような世界ではなくなってきていて、3D プリンティングとかレーザーカッターとか、色々な技術が出てきて、ソフトウェアの進化もあって、もっと小さいロットで、もっと個人が欲しいものを少しずつ生産していくみたいなものづくりというものも今後可能になっていく、そういうデジタルパブリケーションの世界について、やはり技術の教科書でもぜひ触れてほしいと、今の子どもたちが大人になる頃には絶対そういったことが盛んになっているということを考えた時に、どのような扱いになっていくのかというのを拝見した。

そうすると、例えば教育図書とかプログラミングの組み方とか非常に説明が丁寧で見や

すいが、ドリトルといった日本語のプログラミング言語しか扱っておらず、やはり実際に、高校に行ったり社会に出ていく中では、もう少しテキストプログラミングでも英字を使ったプログラミング、HTML とか、そういったものに触れてほしいという物足りなさがあったり、開隆堂の木材 12 種類の特性をまとめるなど生徒の興味に応えるような内容にはなっているが、もう一歩もの足りないと感じた。東京書籍については、デザインも見やすく製作に関することが豊富であるということと、デジタルパブリケーションなど 3D プリンティングといったことについても言及がある。鎌倉にはこういった 3D プリンティングなどを自由に使えるファグラボという施設があり、生徒がもし関心を持てばそういったところにも活動を繋げていける唯一の教科書だと思う。またプログラミングの事例の中でも HTML を使うような製作例もあり、そういったものでやっぱり義務教育の最後に少しでも触れて、今後に繋がるようなものが入っているということから、東京書籍を推したいと思っている。では他の委員いかがか。

下平委員

この感染拡大の状況下であるニュースをたまたま見た時に、医療の世界でフェイスシールドをしているという状況が続くようであれば、3D プリンターでフェイスシールドを作って、医療に寄付してあげるというそれを見た時に、もう時代はこういう時代なのだと改めて思った。この技術分野も非常に出てくるものが変わっている分野ではないかと思う。今教育長がおっしゃったように、やはり各社ともネットワークを活用したコンテンツは出ているのだが、やはりプログラミングに関して幅広く取り上げてくださっている、3D プリンターとかそういうものにしても、丁寧に扱っているという意味ではやはり東京書籍が秀でているのではないかと思った。

山田委員

技術も、このあとの家庭科もそうなのだが、授業時間が少ない割には本当に盛りだくさんで、３年間が詰まっているとはいえ、こんなに本当にできるのかと最初に感じていた。おそらくこの教科書は４年後にまた訂正される頃には、この中の多くがデジタル教材になっているのではないかと推測する。実際、子どもたちがお料理をしたり、なにか分からない器具の使い方とかを考える時にも、こういった書物を見るというよりは YouTube とか動画を使って学ぶというのが日常になっているので、もしかしたらこういう厚みの本を使ったりするというのは最後なのかもしれないと感じたりもしている。その中で、やはり教育長がおっしゃったような視点から、私も東京書籍がよりふさわしいと感じている。

齋藤委員

技術については様々あるのだが簡単に、まず教育図書についてお話をさせていただく。技術によってよりよい生活、持続可能な社会を構築するための実施能力を身に付けられるよう、分かりやすく丁寧な解説と写真等が掲載されている。生徒たちが見たときに、親しみがあって、これなら大丈夫、こうやっていけばよいというのが考えられるのではないかと思った。思考力、判断力を養った上で表現力、こうやって作っていこうという目安を身に付け、

そして豊かな学びの積み重ねによって将来なにが起こってもなんとか自分の力で生きていく、なんとか工夫していくという役に立つことを考えていく。そういう問題を解決する能力を養うことのできる教科書であると思った。それから開隆堂については、先程皆さんお話のように様々なよい部分も出ていた。東京書籍については、写真が多く扱われて分かりやすくなっているということと、最適化の窓というものがあり、技術の視点が豊富に記載されていて、具体的にそれを生徒が見た時に、こうやって覚えていこう、こうやればいいんだというのが納得できるよう、主体的に取り組む事が出来る形をとっている。こういった様々な工夫があることも含めて、わかりやすいということも非常に重要だと思うことから、私は東京書籍を推したいと思っている。

朝比奈委員

技術分野について、私は小学３年生のときに、父親から電気工作を最初に学んだ時から、大好きなものであるから、興味津々で拝見したが、見ているともはや、はんだごてというのは学ぶ必要がないのかという感じがある。そこで教育図書さんであれば、別冊でこの辺をより深めたい方には別途詳しく掲載されている。技術の授業を通して中学校３年間で、色々な興味や適性を見たい、つまり高校に上がる時に進路に関わる様な、そういった助けにもなるだろうと思う。決して家の電気が切れたら、お父さんが替えられるくらいの知識ぐらいは身に付けておくべきというような話ばかりではなくて、生徒たちの将来に関わってくるので、専門的に学び、例えばプログラミングや、木工の図面のところでは 3DCAD が出てくるのは東京書籍だけなので、その辺がもう未来を作る能力を養うということを見据えている。先生がどこまでその授業をやってくださるかにかかってくるのだが、僕はもう山田委員がおっしゃったように、４年後はまたさらに違うことがおきていて、絶対、半田ごてなどは出てこないと思う。技術の授業はかなり昔と違うのだということを感じた。昔と違う、ネットの大事なところが上手に紹介されているのが、東京書籍であると感じたので、私も東京書籍を薦めたいと思う。

岩岡教育長

意見が出揃い、技術・家庭（技術分野）については、東京書籍を推すというのが全員一致だったということから、東京書籍を選定したいと思うが、皆さまいかがか。

（異議なし）

岩岡教育長

では技術・家庭分野については東京書籍を選定いたしたいと思う。では次に技術・家庭（家庭分野）について、担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

それでは技術・家庭（家庭分野）について説明する。検討委員会で３者の教科書見本本を検討した結果、３者の中でも特に東京書籍へのご意見が多く、検討委員会として一番目の推

薦となっている。

まず東京書籍について説明する。調理実習では３品の献立全体の調理手順の流れが分かるように図で示されていると共に、タイムスケジュールの記載もあることから、生徒が調理手順をイメージしながら学習することができ、実生活に役立つようになっている。また巻末に防災・減災手帳と、子どもの視界体験メガネが用意されており、経験を通しての学びを大切にし、生徒の実践的・経験的な学びを促すことができる。

続いて教育図書について説明する。口絵に年中行事一覧が掲載されており、行事と普段の生活との関わりを家庭科の学習の中で取り上げ、生徒の興味を持たせることができようになっている。

最後に開隆堂について説明する。豊富な調理実習例の中に、調理方法 Q&A というコーナーが設けられており、調理にまつわる科学的な裏付けを基に、調理に大きな興味を持たせることができるようになっている。以上である。

岩岡教育長

技術・家庭ということなので、私から口火を切らせていただきたいと思う。個人的な情報を開示すると、私は趣味と実益を兼ねて料理を趣味としており、料理に関してどのような書き方をしているのかということを、強く想いを持って見させていただいた。各社、工夫はされているのだが、東京書籍は先程の報告にあったとおり、３品を同時に作るといった中で、どのような時間配分でやっていけばよいのかということを、同時並行でできるような形になっており、これが実際に料理を作るといった段階においては非常に重要なことであるので、ここは重視したいと思ったのが一点。あと料理の手法についても、単に焼く、煮るといったところの技術だけではなくて、余熱で火を通すとか、蒸し焼きにするとか、そういったところを丁寧に取り上げていると思った。例えば肉じゃがの作り方のところで、最後にきぬさやや、インゲンを入れて仕上げる訳だが、蓋をしてしっかり火を通すなど、そういったところを丁寧に書いてあるということで、鎌倉は非常に美味しい食材がたくさんある、鎌倉野菜とかもある中で、そういった食材を美味しく仕上げるというところまできちんと工夫して書かれているのは東京書籍であろうと非常に好感を持った。またデジタルコンテンツとしても、住居での危険を探すシミュレーションとか、あとは乳児についてはどの教科書も取り上げているのだが、愛情を持って乳児に接することの大事さというのを取り上げているのは東京書籍だけということで、ここも評価が高いと感じている。私はこちらに来る前に、幼児教育の仕事をしていたが、養成校の学生さんたちに、何故保育の道を目指したのかということを伺うと、「中学生の時の職場体験での経験が大きい」というような声も多かった。やはり保育に関しては今非常に人が足りないということで、人材不足もある中で、乳児に対しての愛情を持って接するということを中学生から伝えられるというのは非常によいと思った。生活の課題と実践という部分も各社あって、生活の中における課題を探しだして、それをどのように実践して改善していくのかというところも教科書に取り上げられているのだが、課題を整理する様々な思考、マインドマップみたいなものとか、レポートなどにどのように書いていくかというところも丁寧に書かれていて、非常に使いやすい教科書ではないかと思う。教育図書も例えば食材が実物大で書かれていて、この大きさに切ればいいんだ

というのが分かりやすい。開隆堂も３品料理手順、同時に並行できるというような工夫もあるのだが、その辺を揃えて考え、東京書籍を推したいと思う。では皆さまいかがか。

齋藤委員

教育長が詳しく説明してくださったので、私が一番気になっているところをお話したいと思う。私は東京書籍がよいと思っているのが正直なところである。というのは、主な栄養素を食品の例などグラフで視覚的に捉えて理解しやすくなっており、それから資料の中では実物大で写されている写真が綺麗であった。そういうのを見ると日常の中でぱっと動ける、子どもが育っていく中で、何かの時に自分でお料理する時に活用できるような学びが備わっているというようなことも含めてよいと思った。色々なことを理解、工夫をして調理を丁寧に、子どもを育てるという意味で、任せられると思う。調理しよう、作ってみようというところで、主体的な取組をするところに、興味関心、意欲を持って、結局は自立に向けて育てることのできる教科書であるということを感じた。また生活のメモというところで、社会で生きていくための実生活に生かしていく学習構成になっているとういうことで、幼児とか高齢者や、障害の人々への配慮を考えていかないといけないということを学ばせているというところもよいと感じ、私は東京書籍と考えている。

下平委員

開隆堂の素晴らしいところは調理実習のところでアレルギー食品に黄色で色づけがされていて、アレルギーに対しての意識が高まるので、そこがとても素晴らしいのではないかと思う。後はSDGsとの関連が徐々に体系化されているということ。それから巻末に災害から命と生活を守ろうというようなところも非常に印象に残った。教育出版は巻末の料理シールなどは楽しく使えそうだと思ったところである。ただ東京書籍は、皆さんがおっしゃるように、今まで触れられていないところでは、巻末の付録に防災・減災手帳というのがある。これは切り取って手帳として保持できるようになっていて、これは使い方よっては非常に役に立つし、子どもの視界体験メガネでは、子どもの視点で世の中を考えられるような新しくてよい教材だと感じた。最後にSDGsが大きく掲載されているということがとてもよいと思うので、全体的に見るとやはり東京書籍を推したいと思う。

山田委員

私は教育図書の最初の見開きのところに「年中行事と私達」というところで日本ならではの四季を備えた、あるいは色々な行事に合わせた私達の暮らしがあるというところが入っているのがとてもよいと思う。和食について出汁は色々な種類の出汁が比較的詳しく載っており、こちらもよいと思っている。料理というのは全く結婚しなくてもいいとか、子どもはいらないというような声が若者からよく聞かれるし、出会う機会とか身近に感じる機会がないのかと思っているので、見れば赤ちゃんを触りたいというのは誰でも実感するものなので、なるべくそういった赤ちゃんを身近に感じるきっかけが作れるという面では倫理が扱われているという非常に重要な観点だと思うので、私も東京書籍を推したいと思う。

朝比奈委員

私事で恐縮だが、いつから男子生徒も家庭分野を学ぶ機会をいただけるようになったかと思うのだが、私個人的なことを申し上げると、お坊さんというのは全部自分でしなくてはならない。私の世代は料理、裁縫をしたことがない男子であるため、非常に苦労して見よう見まねで裁縫をやったり、料理をしたり、先輩に叱られながらやっていたのだが、今の子どもたちが将来そうなったときに、小学校・中学校とこれだけやってきているのであればきちんとできるだろうと思うと同時に、大事なことだと思った。それで私は食いしん坊だからだとは思うのだが、どちらがよろしいかというのは、この東京書籍の方が調理のところの説明が後で見返しても役に立つぐらい整理されたように思える。ユニバーサルデザインとか新しい冊子の本ももちろん出てくるが、ここに関しても、私は整理されて見やすくてやりやすいと感じたので、東京書籍を推したいと思う。

岩岡教育長

ただ今のご意見まとめると、技術・家庭（家庭分野）については東京書籍で一致していると認識していると考えるが、よろしいか。

（異議なし）

岩岡教育長

それでは技術・家庭（家庭分野）は東京書籍を選定いたしたいと思う。では最後の種目になるが英語について担当指導主事より報告書の説明をお願いする。

教育指導課指導主事

英語について説明する。検討委員会で６者の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、三省堂、光村図書の３者が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また３者の中でも、特に光村図書へのご意見が多く検討委員会として一番目の推薦となった。

まず東京書籍について説明する。他教科と関連した題材を英語で学習する内容や、討論やディスカッションを行う「Let’s Talk」等、英語での理解や英語での表現の力を伸ばす内容が取り扱われており、実践的な英語の力をつけることができる内容となっている。

続いて三省堂について説明する。想像力やアイデアを生かし、目的や場面、状況に応じてまとまりのある英文を書く活動が取り扱われており、独自の手書きフォントを使用して、印刷文字と実際に使用する文字が同じになるようにするなど、生徒が各活動に取り組みやすくなっている。

最後に光村図書について説明する。国際郵便や宛名の書き方やニュースの聞き取りなど、日常の生活場面で使用する生きた英語につながる活動が多く取り上げられており、日常的なやり取りをする活動や、本文の内容を自分の言葉で組み替えて伝える活動など、生徒自らが考えて言葉にする実践的な言語活動を通して、鎌倉の生徒に付けさせたい力を伸ばすことができる内容となっている。また本文の内容としては、国際理解や環境問題など、英語圏だけでなく世界を意識する内容が扱われている。

岩岡教育長

それでは英語について６者から選んでいく事になるが、教育委員の皆さまはいかがか。

山田委員

英語に関しては、私は２点を中心に考えた。一つは、中学生の将来を見据えて、彼らが社会に出た時を見据えて、自分で伝える英語力が最も身に付きやすい教科書はどれかということ。それから、子どもたちが言葉をしゃべることができない段階から家庭と同じ様に、国語を身につける、まずは耳で聞いて、話して書いて読んでというプロセスを踏んでいる教科書であるか。以上２点を特に重視して選んだ。また日本の子どもたちが実際に英語を使うシーンになっているかということも重要視した。例えば教室内の先生と子どものやり取りは、多くの教科書で掲載されているのだが、実際に日本人同士で英語を話すなんてことはもちろんないわけなので、日本と海外で比較するとか、そういった意味のあるものであること。それからレストランとか街中での道案内とか、実際に子どもが、もしかしたらそういう状況に置かれるかもしれない、あるいはインターネットでの情報収集とか、通貨の換算とかそういった実際に英語を使うであろう自然な設定であるかということも重要視した。また読み物に関しても、英語で読むのに適した題材であるかということも大切に選んだ。その観点から６者の中から三つに絞って検討した。一つは光村図書である。先程申した、聞くところから入って、話して書くという流れであるかという観点で、それに沿っていると思う。冒頭、最初の６ページ目のところに、言葉で人と繋がろうという見開きのページがあり、そこでは目線とか表情などコミュニケーションを取る上での重要な非言語力が明示されているのがとてもよいと思った。内容も中学英語に入る前に小学校で自己紹介とか挨拶は一通り習っているという前提での入り方になっていて、それなりのレベルで始まっていると思う。各ユニットの冒頭に、このユニットのゴールが設定されているので、どこを目指せばよいのかというのも分かりやすいと感じる。また鎌倉にゆかりのある杉原千畝さんなども取り上げられている。もう一つ、光村図書と同じくらいすごくよいと思ったのが教育出版である。こちらは全般的に非常に自然な英語で、本来このくらいのレベルを目指したいという内容になっている。学校生活はどの教科書にも取り上げていて、先程も話したようにこちらが日本とオーストラリアを比較して取り上げていること自体に意味があると思うし、実際に時差の少ないオーストラリアとかシンガポール、香港などという国と子どもたち同士で、チャットができるというようなことも先生方が調整していただけたらよいのではないかと思う。世界的に今議論になっている環境問題の取り上げとか、社会貢献の意識の醸成などが取り上げられている。さらにアクティビティトライというのは、習熟度に応じてディスカッションしてやっていくとよいと思う。三つめは開隆堂である。そちらは先程も話が出ていた杉原千畝など、AI は友か敵かという内容等、そういった英語で読むことによってより感じやすい題材が挙がっていると感じる。その他の教科書もそれぞれによいところがあるのだが、最終的には教育出版と光村図書で迷い、私は最終的に光村図書を選んだ。

下平委員

おそらく今は三省堂を使っていたと思うので、それで三省堂から読んでみたのだが、三省堂は特に２、３年で話すことを大切に学んで実践できるように、ディスカッションプログラムも盛り込まれているというのも好感が持てたし、巻末のところで特徴的会話ができるように朗読練習シート等も用意されていた。あと英語で紹介というところだとか、２本限定のアイスクリームを作ってみようとか、本当に生徒の興味をそそるような問いかけ、取り組みがよいと感じた。

次に啓林館は会話練習が非常によくて使いやすいと感じた。「More Information」のコーナーでは他教科との関連とか、理解を深めるような工夫もされていたし、３年生の巻末で全部の基本文とか会話などをまとめてあるところも最終的な復習をするのにすごく使いやすいと思った。

教育出版ではやはり中華街とか長谷の大仏、横浜スタジアムなど単純に鎌倉の生徒たちに身近な題材が取り上げられていて、これも非常に魅力的だなと感じた。あと開隆堂もパワーアップコーナーで空港でのトラブル時の対応の非常時のアナウンスメントとか、生活に密着した形で英語に触れられるような取り組みとかも評価できると思った。ただ、やはりリスニングから、これからは聞き取れること、話せる事はとても大事だと思うので、そういうところに非常に焦点を当ててくれている光村図書のテキストも評価したところである。あとデイリーニュースのコーナーで、ニュースの聞き取りや日常生活で役立つ英語を取り上げているところが素晴らしいと思う。

齋藤委員

まず三省堂だが英語に親しみやすくアルファベットでの名前、また単語の発音、次にコミュニケーションを楽しもうという流れで進んでいくところが生徒たちも興味を持って取り組めるのではないかと感じた。整理がされていて、分かりやすく抵抗なく学習し、思考力、判断力また表現力の育成に繋がるのではないかと感じた。さらに言語能力の育成、ディスカッションをしようという単元があり、身近なテーマで考えたり、表現したりすることにより理解をより深めることができるような形になっていることを感じた。

それから光村図書については小学校の学びは中学校に繋がっており、身近な自分のことや日常生活について絵と写真を利用して自分の言葉で伝えるような活動がある。もう一つは大判の開きが分かりやすい写真が掲示されていて、より教えやすくなっている。それから、つながろう・やってみよう・聞いて書こうという意欲的な取組の中で楽しみながら学ぶことができ、また親しみのある表現が使われている。１年生ではやってみよう、２年では見つけよう、３年では続けていこうという流れで、年間段階的に学びが設けられているということを踏まえ、それから光村図書が私はよいと思いつつも、実は教育出版も魅力的と考える。というのは、神奈川の身近な観光地ということで、中華街や長谷の大仏、横浜スタジアム等、神奈川に関する内容が各学年で扱われているということで、学習したくなる教材が設定されており、教育出版も魅力的だと思ったのだが、先程の理由から、最終的には光村図書で学ばせたいと思っている。

朝比奈委員

今年の１月の末ニューヨークに行って、講演をする機会があって、私が日本語で講釈をするのだが、やはり英語で会話ができるようになれたらよかったと思うが、光村図書の予備教材が具体的にどれほど生かされたというのはまだ不明であるが、こういうもので勉強していき、文法も大事だけれども、せめてお話ができる程度の度胸がついて、日常に生かせるような教科書だとよいと思った。私の想像でしかないかもしれないが、そういう期待を込めて光村図書を推したいと思う。あと、他にもそういった工夫があると思うが、特にこの帯で別の形態になっているところが使いやすく感じたので、光村図書でお願いする。

岩岡教育長

私の意見であるが、英語は教育課程、学習指導要領からずっと改革を進めてきている。読む、聞く、やり取り、発表、書くという５領域の言語活動ごとにきちんと目標を定めて、それが達成できるような言語活動を行うというような学習指導要領の組み立てになっており、それが達成できる構成となっているかというのが大きな視点かと思った。また山田委員からもお話があったが、これまで日本の英語教育は、まず読むというところから入っていたのだが、言語習得の順序と同じように、聞く・話すから入り、読む・書くといった方向に発展していくという順序が徹底されているかということも重要視している。また小学校で英語が教科化され、ゆっくり話せば大まかに意味が伝わること。基本的な表現でのやり取りができるといった目標に向けて教育を行っているというところであるが、そこからどのように、トランジションつまり接続が上手になされていくかということも見たいと思った。QR コードを通じての音声、動画へのアクセスも非常に重要なポイントで、いかに適切な音声を聴いて、それを真似ていくのかというのは英語習得で必須であり、それまで紙だとできない環境だったのが iPad と QR コードでできるようになったので、存分に使える内容になっているのかというところも見たが、結論としては光村図書が非常によくできていると思った。活動のゴールをはっきりと示しており、この単元で何ができるようになりたいかというところをはっきりと示して、そこから逆算して活動を組みいれている。バックワードデザインと言うが、そうした構成が貫徹されている。そしてリスニングから入って、スピーキングに移って、それから読んで、単語を勉強し、文法の補足をしてライティングに入っていくという流れが非常に充実している。イギリスでセルカという英語教師資格があるのだが、セルカの免許を持っている人に話を聞いた時に、日本の授業スタイルは駄目で、それは何故かというと先生が話し過ぎているという話があった。生徒が話す時間が８割で、先生が話す時間は２割くらいがちょうどよいと言われている。まさにそういった授業展開ができるのは光村図書が一番やりやすいと考える。子どもたちが英語を好きになって授業で発話をしているというイメージがよいと思い、光村図書がよいと思っている。これは中学校の英語の先生がその授業を展開するのは、実はしんどいと思う。これまで文法やリーディングを中心に教えてきた先生たちがいらっしゃる中で、光村図書で教えたいということで、検討委員会の報告書に一番で上がってきたというのは、非常に英語教師の皆さまに感服するし、嬉しく思っているところである。私としては光村図書を推薦したいと思っている。それでは皆さま、ご意見出揃い、教育出版が例えば、非常に神奈川に沿ったコンテンツが含まれているとか、本当であ

れば小学校で会話コミュニケーションができるようになるのであれば、これぐらいのことはできてほしいというような自然な英語が１年生の時から入っているというご指摘もあったのだが、全体のデザインや長所を総合的に考えると、光村図書という声が大半であったと思っているが、そういったまとめでよろしいか。

（異議なし）

では英語については光村図書を選定したいと思う。以上で全種目について協議を終了させていただきたいと思う。ただいまの協議結果を基に、事務局に資料の作成をお願いし、議案第 15 号の審議に移りたいと思う。では事務局の資料作成の為、一旦休憩とさせていただく。

（休憩）

２　議案第 15 号　令和３年度（2021 年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について

岩岡教育長

それでは教育委員会８月臨時会を再開する。それでは８月臨時会を再開する日程の２議案 15 号「令和３年度（2021 年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」を議題とする。議案の説明についてお願いする。

教育指導課長

日程第２議案第 15 号「令和３年度（2021 年度）小学校及び中学校教科用図書の採択について」説明する。議案集は２ページを参照願いたい。令和３年度（2021 年度）使用小学校教科用図書については、４月の定例教育委員会において令和３年度（2021 年度）使用教科用図書の採択方針を議決いただいた中で、令和元年度（2019 年度）に採択した教科用図書と同一のものを採択することとなっていることから、議案集の３ページにある令和３年度（2021 年度）使用小学校用教科用図書一覧表（案）のとおり提案するものである。また令和３年度（2021 年度）使用中学校教科用図書については、先ほど種目ごとに選定していただいた。それを一覧表にまとめたものがお手元の令和３年度（2021 年度）使用中学校教科用図書一覧表(案)で、表のとおり 11 教科 16 種目の中学校教科用図書採択するものとして提案するものである。

岩岡教育長

ただいまの事務局の説明に対するご質疑または原案に対する意見などがあるか。

（質問・意見なし）

（採決の結果、議案第 15 号は原案どおり可決された）

下平委員

毎年お願いしていることだが、本当にこれがスタートであって、やはり大事なのはどの教科書も素晴らしいものなので、これを使って子どもたちの今とそして未来がつながるような教育に共に繋げていきたいと思う。先生方に伝えていただきたいと思う。よろしくお願いする。

岩岡教育長

私から一言だけ申し上げる。今回中学校教科用図書の採択ということで、新しい指導要領に基づく教科用図書の採択行ったが、教科書を選ぶという仕事はなんとも素敵な仕事であるという教育委員一同再確認をしたものである。学校現場の先生方がどのような授業を展開するのか、それによって子どもたちがどのように心が動いて、技能が身について成長していくのかということを考えながら教科書を見ていくというのは非常に充実した作業で、教育委員一同、夜も忘れて教科書を読みふけってしまったということがある。ただこうした充実した調査研究ができたのも、教育委員会の事務局の職員や指導主事の皆様が非常に丁寧に教科書を読み込んだ上で、検討委員会においてじっくりと議論をしていただき、またその教科書をじっくり読んでいただいた学校現場の調査委員の先生方や各教科担当の皆様、学校の方で一生懸命読んでいただき、あと最後にこの教科書の見本の展示会で市民の方々に来ていただいて教科書を読んでいただいてご意見をいただき、そういったことがあったからこそ、まさに充実した議論ができたものと考えている。皆様のこれまでのご苦労とご努力に心より感謝を申し上げたいと思うと同時に、この教科書を使ってさらに鎌倉の教育を前に進めていけるよう教育委員一同引き続き取り組んで参りたいと思うので、またよろしくお願いしたいと思う。

それでは日程の３については非公開とするので、傍聴の皆様は退席をお願いしたいと思う。一旦休憩を取り再会は場所を移して行う。

（休憩）

―――――――――――――――――――― 非公開 ――――――――――――――――――――

３　議案第 16 号

鎌倉市教育委員会職員の人事について

――

岩岡教育長

以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって、８月臨時会を終了する。